

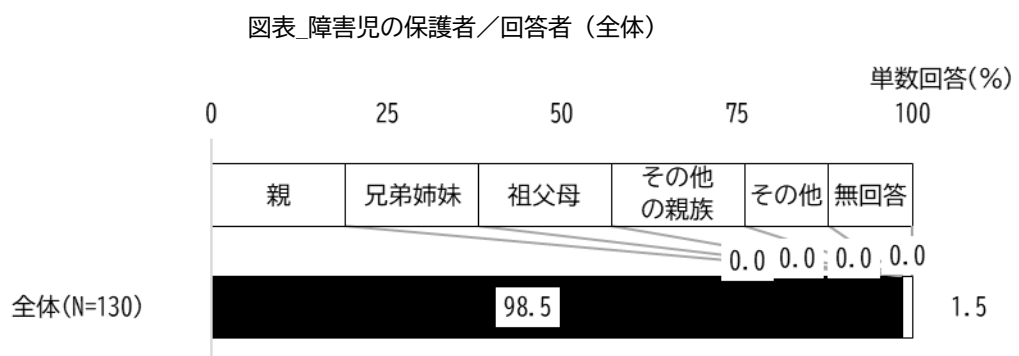
第5章 障害児（18歳未満）の保護者調査結果

【調査名】子どもと保護者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

1 保護者（調査に回答していただく人）についておたずねします

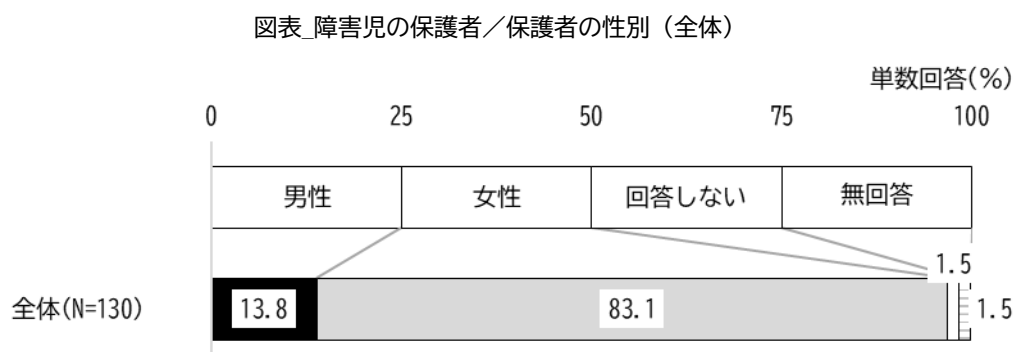
問1 あて名のお子さんからみて、保護者（回答者）はどなたですか。（1つに○）

- 回答者は、「親（98.5%）」が多くなっている。



問2 保護者の性別を教えてください。（1つに○）

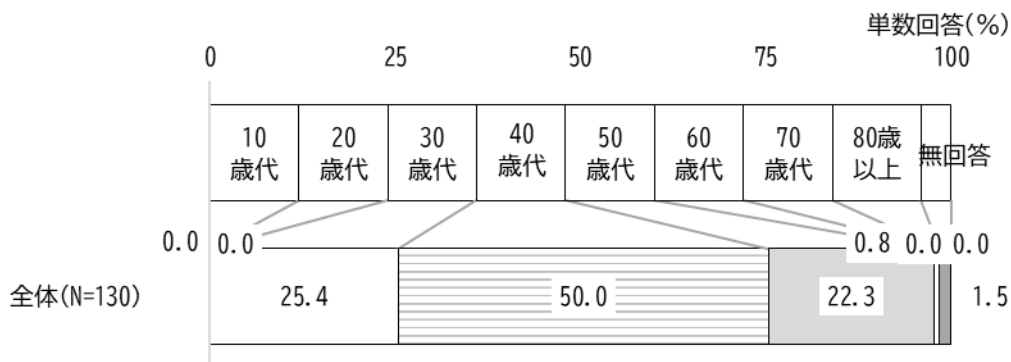
- 保護者の性別は、「男性（13.8%）」、「女性（83.1%）」、「回答しない（1.5%）」である。



問3 保護者の年齢を教えてください。(1つに○) (令和4年10月1日現在)

- 保護者の年齢は、「40歳代(50.0%)」が最も多く、「30歳代(25.4%)」, 「50歳代(22.3%)」が続いている。

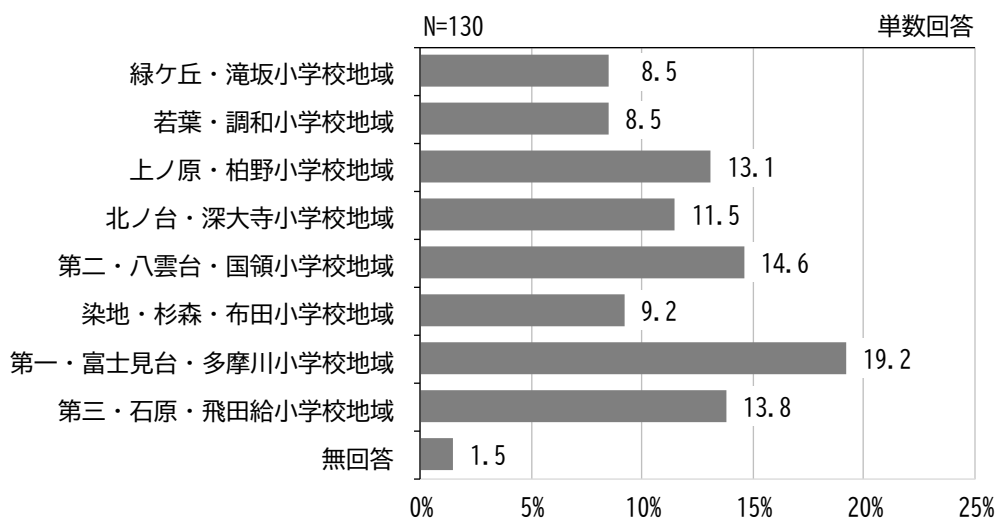
図表_障害児の保護者/保護者の年齢(全体)



問4 お住いの地域を教えてください。(1つに○)

- 居住地域は、「第一・富士見台・多摩川小学校地域(19.2%)」が最も多く、「第二・八雲台・国領小学校地域(14.6%)」, 「第三・石原・飛田給小学校地域(13.8%)」が続いている。

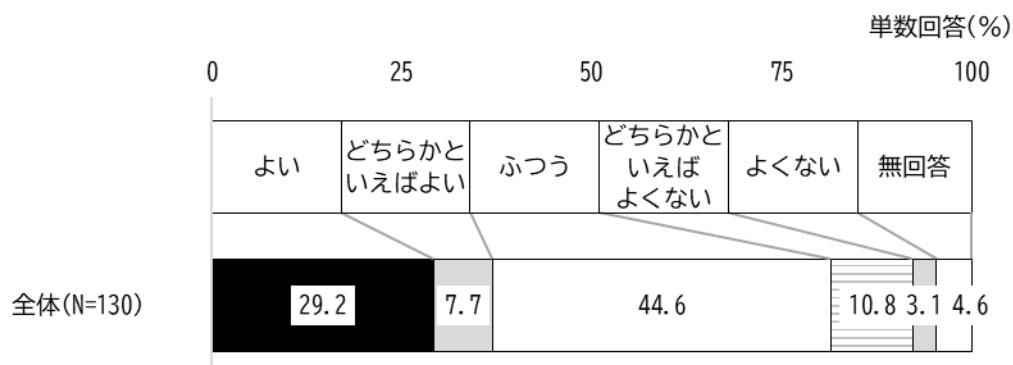
図表_障害児の保護者/居住地域(全体)



問5 あなた（保護者）は、ご自分の健康状態をどのように感じていますか。
（1つに○）

- 保護者の健康状況は、「よい（29.2%）」と「どちらかといえばよい（7.7%）」を合わせた『よい』は36.9%、「どちらかといえばよくない（10.8%）」と「よくない（3.1%）」を合わせた『よくない』は13.9%となっている。

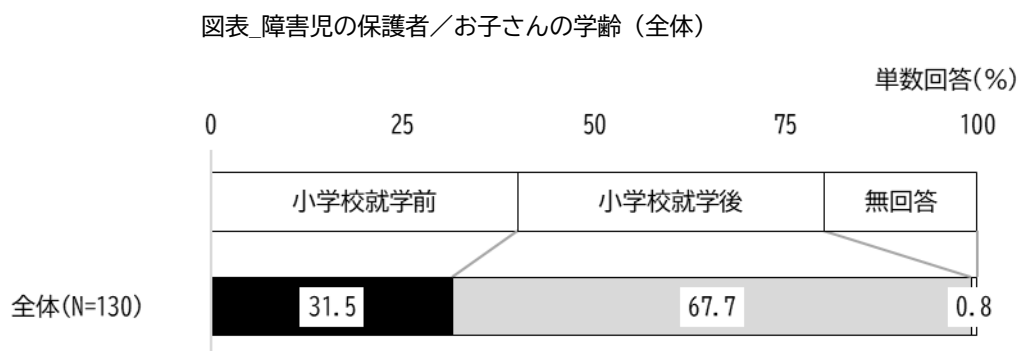
図表_障害児の保護者／保護者の健康状況（全体）



2 保護者の方に、あて名のお子さんについておたずねします

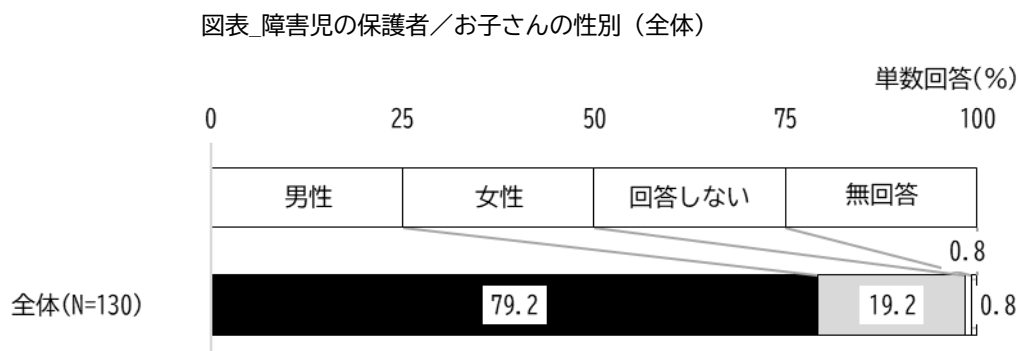
問6 あて名のお子さんの就学状況を教えてください。(1つに○)

- お子さんの学齢は、「小学校就学前(31.5%)」、「小学校就学後(67.7%)」である。



問7 あて名のお子さんの性別を教えてください。(1つに○)

- お子さんの性別は、「男性(79.2%)」、「女性(19.2%)」、「回答しない(0.8%)」である。

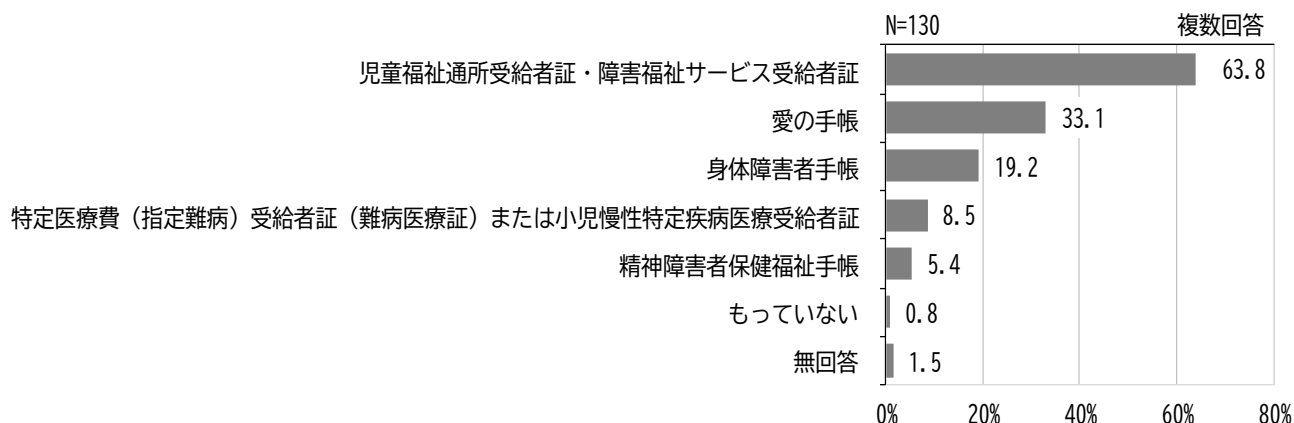


問8 あて名のお子さんがおもちの手帳等とその等級を教えてください。(いくつでも○)

① 持っている手帳の種類

- お子さんの持っている手帳の種類は、「児童福祉通所受給者証・障害福祉サービス受給者証(63.8%)」が最も多く、「愛の手帳(33.1%)」、「身体障害者手帳(19.2%)」が続いている。

図表_障害児の保護者/お子さんの持っている手帳の種類(全体)



② 持っている手帳の等級

- お子さんの手帳の等級は、身体障害者手帳で「1級(56.0%)」、愛の手帳で「2度(41.9%)」、精神障害者保健福祉手帳で「3級(71.4%)」が最も多くなっている。

図表_障害児の保護者/身体障害者手帳の等級【身体障害】(全体)(%)

<身体障害者手帳を持っている人>

1位に網掛	1級	2級	3級	4級	5級	6級	無回答
身体障害(n=25)	56.0	20.0	0.0	12.0	4.0	0.0	8.0

図表_障害児の保護者/愛の手帳の等級【知的障害】(全体)(%)

<愛の手帳を持っている人>

1位に網掛	1度	2度	3度	4度	無回答
知的障害(n=43)	0.0	41.9	27.9	30.2	0.0

図表_障害児の保護者/精神障害者保健福祉手帳の等級【精神障害】(全体)(%)

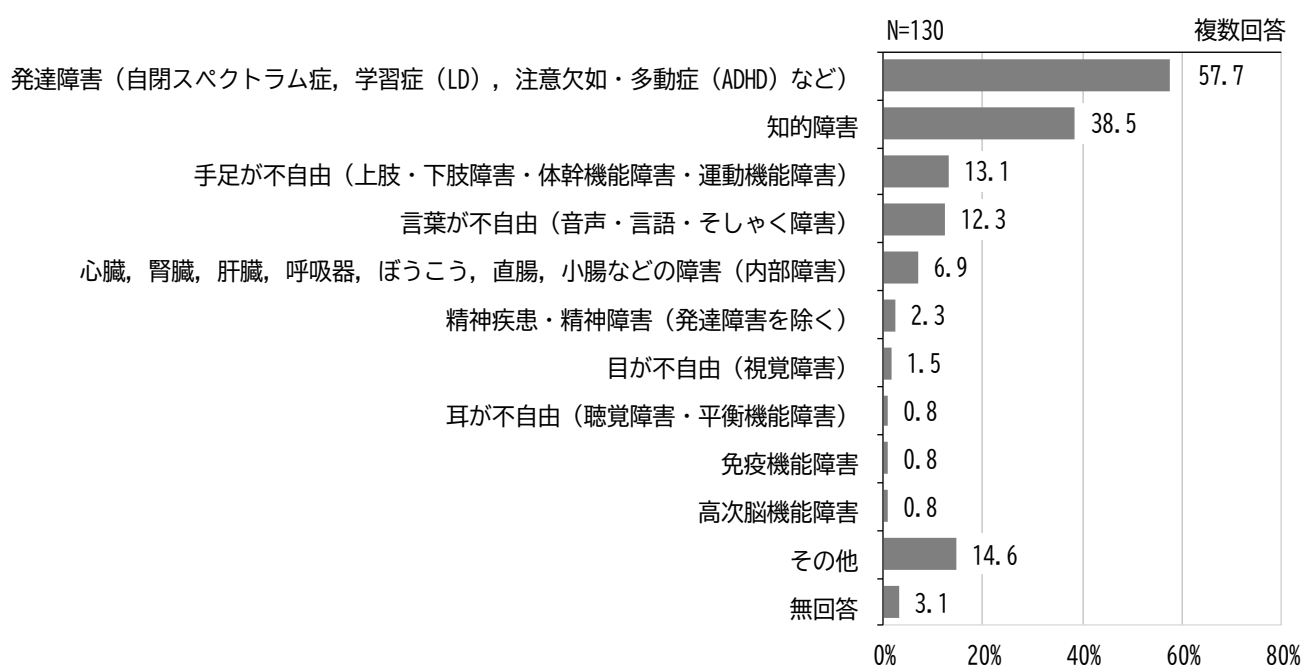
<精神障害者保健福祉手帳を持っている人>

1位に網掛	1級	2級	3級	無回答
精神障害(n=7)	0.0	28.6	71.4	0.0

問9 あて名のお子さんは、どのような病気や障害がありますか。(いくつでも○)
 ※特定医療費(指定難病)受給者証, 小児慢性特定疾病医療受給者証をもつ人は,
 「その他」の欄に病名をご記入ください。

- お子さんの病気や障害の種類は、「発達障害(自閉スペクトラム症, 学習症(LD), 注意欠如・多動症(ADHD)など)(57.7%)」が最も多く, 「知的障害(38.5%)」, 「手足が不自由(上肢・下肢障害・体幹機能障害・運動機能障害)(13.1%)」が続いている。

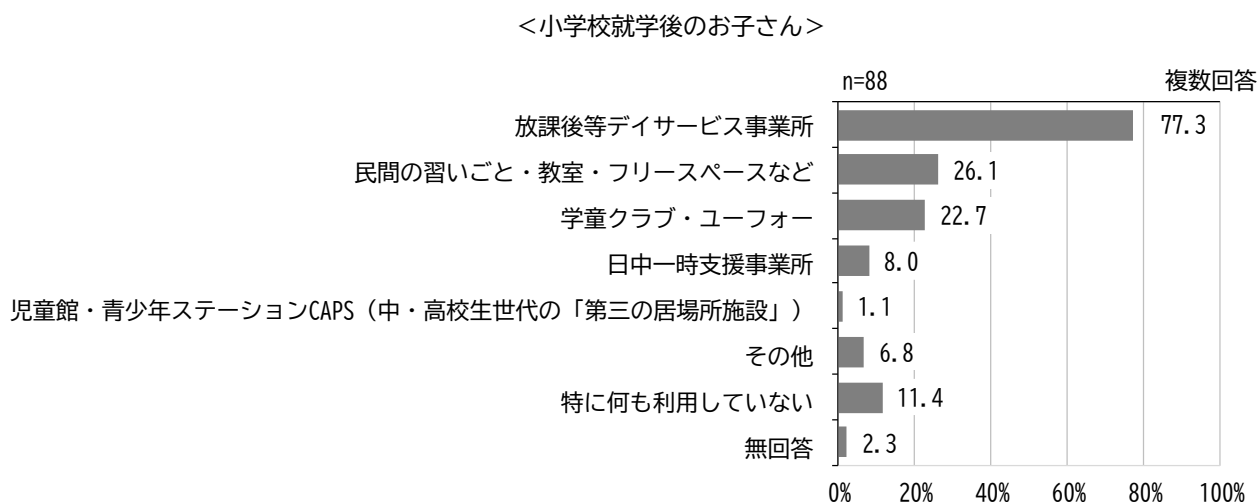
図表_障害児の保護者/お子さんの病気や障害の種類(全体)



問 10 あて名のお子さんが小学校就学後の保護者の方におたずねします。あて名のお子さんは、現在、学校以外の時間でどのようなサービスや施設などを利用して過ごしていますか。（いくつでも○）

- 小学校就学後の学校以外のサービス、施設等の利用状況は、「放課後等デイサービス事業所（77.3%）」が最も多く、「民間の習いごと・教室・フリースペースなど（26.1%）」、「学童クラブ・ユーフォー（22.7%）」が続いている。

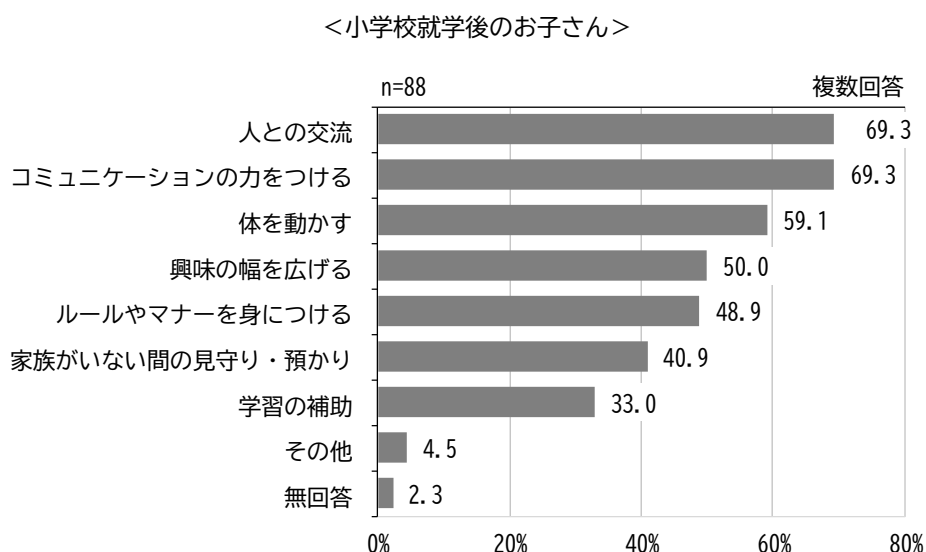
図表_障害児の保護者/学校以外のサービス、施設等の利用状況（全体）



問 11 あて名のお子さんが小学校就学後の保護者の方におたずねします。あて名のお子さんの放課後活動に求めていることはありますか。（いくつでも○）

- 小学生の保護者が放課後活動に求めていることは、「人との交流（69.3%）」と「コミュニケーションの力をつける（69.3%）」が最も多く、「体を動かす（59.1%）」が続いている。

図表_障害児の保護者/放課後活動に求めていること（全体）

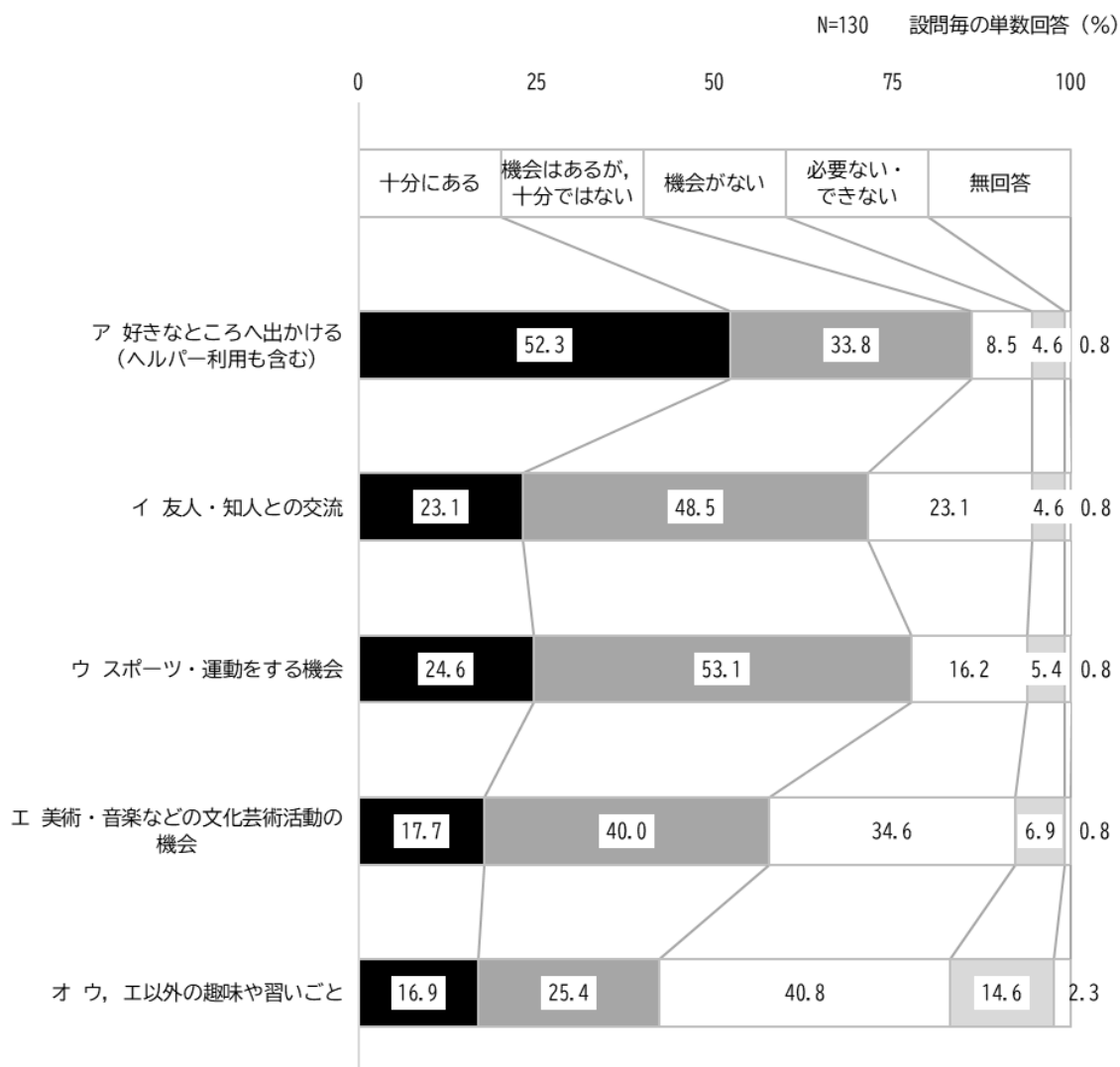


問 12 あて名のお子さんは、普段の生活の中で、次のような機会がありますか。
 (それぞれ1つに○)

- お子さんの生活の中の活動機会について、「十分にある」の割合が最も多い活動は、『好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）（52.3%）』である。
- 一方、「機会はあるが、十分ではない」と「機会がない」の割合の合計が「十分にある」を上回る活動は、『友人・知人との交流』『スポーツ・運動*をする機会』『美術・音楽などの文化芸術活動*の機会』『ウ、エ以外の趣味や習いごと』となっている。

*本調査における「スポーツ・運動」とは、ウォーキング、体操、ヨガなど、競技だけでなく健康づくりのための活動も含む。「文化芸術活動」とは、絵を描くこと、美術館・博物館などに行くこと、歌を歌ったり、演奏したりすることを含む。

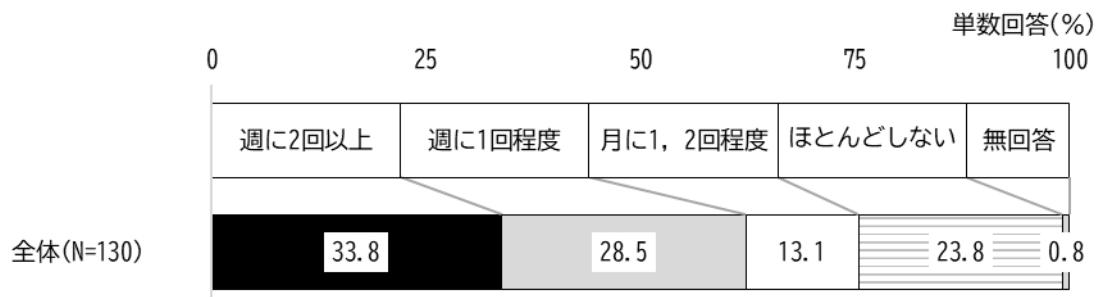
図表_障害児の保護者／お子さんの生活の中の活動機会の有無（全体）



問 13 あて名のお子さんは、スポーツ・運動をする機会はどのくらいありますか。
(1つに○)

- スポーツ・運動をする頻度は、「週に2回以上(33.8%)」が最も多く、「週に1回程度(28.5%)」、「ほとんどしない(23.8%)」が続いている。

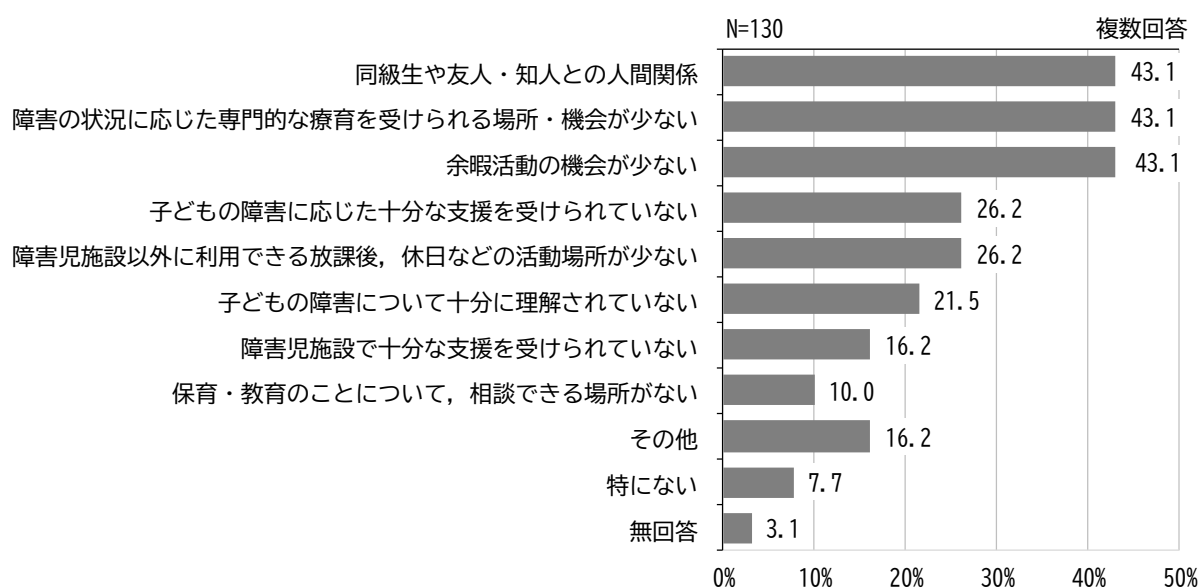
図表_障害児の保護者/スポーツ・運動をする頻度(全体)



問 14 あて名のお子さんの日常生活で不安や課題と感じていることはありますか。
(いくつでも○)

- お子さんの日常生活の中での不安や課題は、「同級生や友人・知人との人間関係(43.1%)」、「障害の状況に応じた専門的な療育を受けられる場所・機会が少ない(43.1%)」、「余暇活動(外出, スポーツ, 趣味, その他の習いごと・サークル活動など)の機会が少ない(43.1%)」が最も多くなっている。

図表_障害児の保護者/お子さんの日常生活の中での不安や課題(全体)



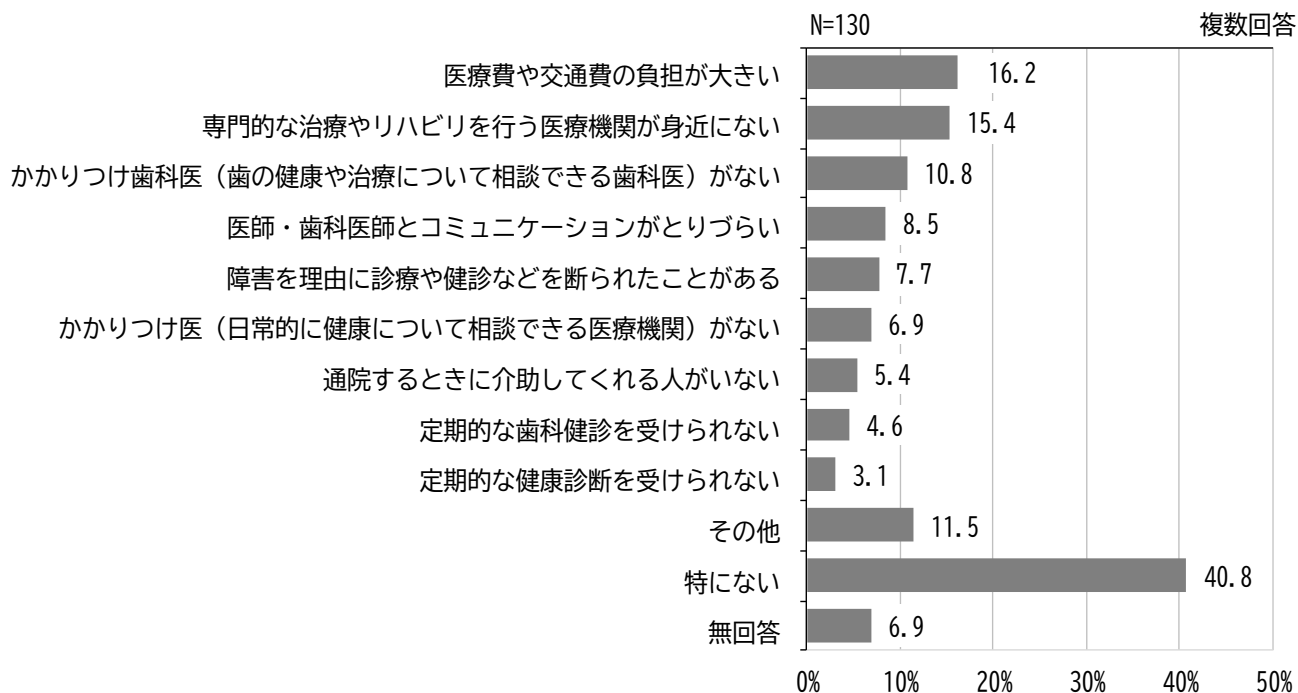
(選択肢の補足説明)

- ・余暇活動(外出, スポーツ, 趣味, その他の習いごと・サークル活動など)
- ・障害児施設(子ども発達センター, 児童発達支援事業所, 放課後等デイサービスなど)

問 15 あて名のお子さんについて，医療機関（歯科を含む）の受診で困ることはありますか。（いくつでも○）

- お子さんの医療機関（歯科を含む）の受診で困ることは，「特にない（40.8%）」が最も多く，「医療費や交通費の負担が大きい（16.2%）」，「専門的な治療やリハビリを行う医療機関が身近にない（15.4%）」が続いている。

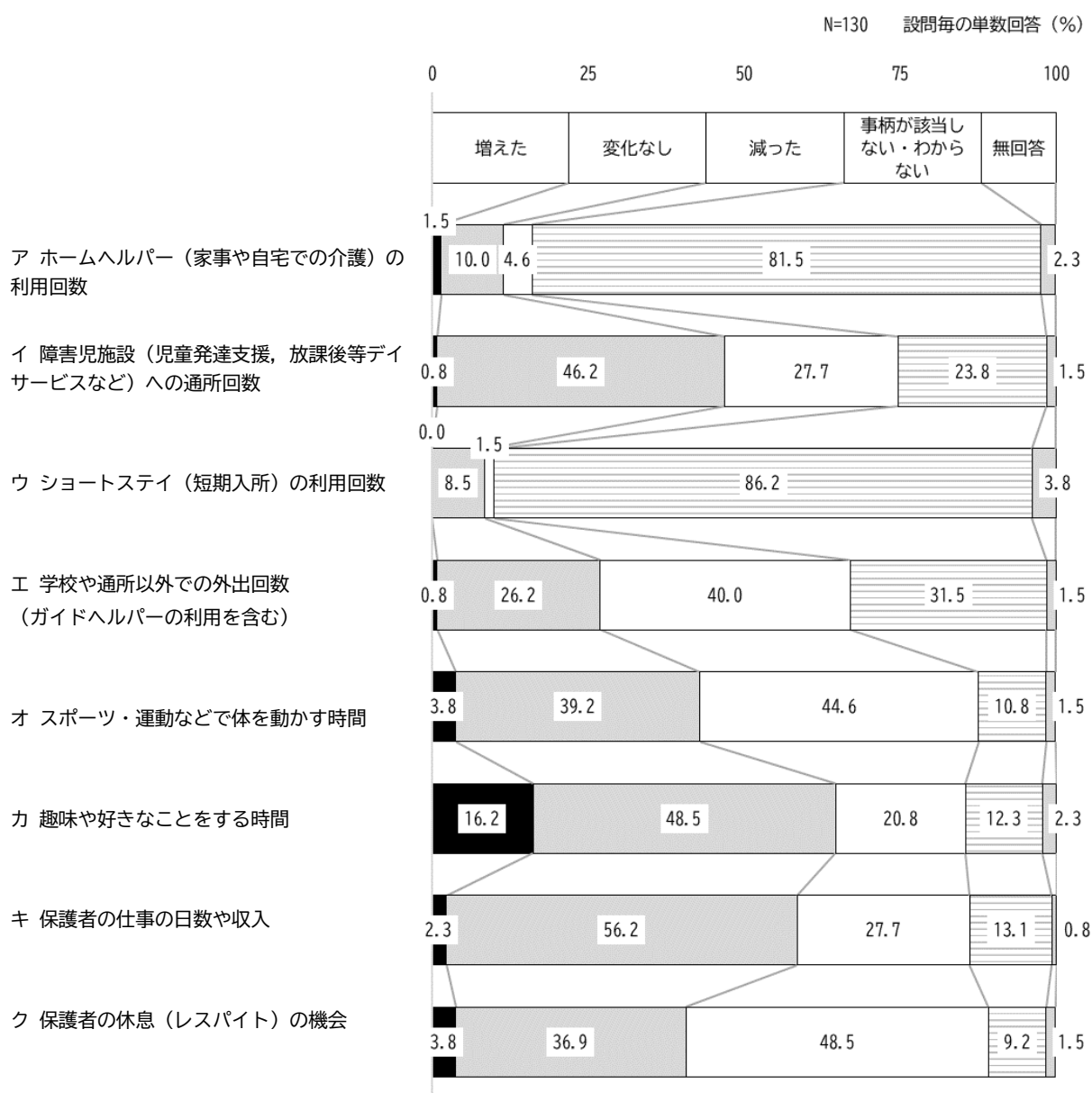
図表_障害児の保護者／お子さんの医療機関（歯科を含む）の受診で困ること（全体）



問16 コロナ禍によって、お子さんの暮らしに影響はありましたか。(それぞれ1つに○)

- コロナ禍によるお子さんの暮らしへの影響について、「増えた」が1割を超える活動は『趣味や好きなことをする時間（16.2%）』となっている。
- 一方、「減った」の割合は、『保護者の休息（レスパイト）の機会（48.5%）』が最も多く、『スポーツ・運動などで体を動かす時間（44.6%）』，『学校や通所以外での外出回数（ガイドヘルパーの利用を含む）（40.0%）』が続いている。

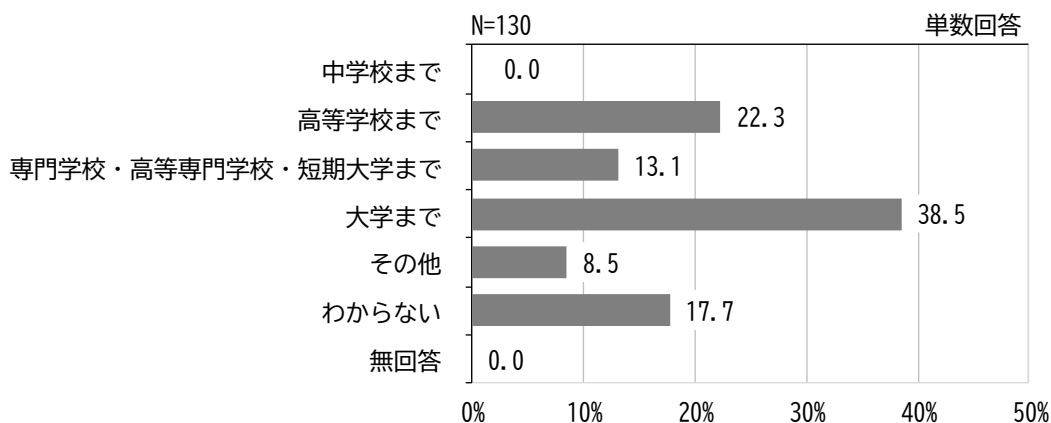
図表_障害児の保護者/コロナ禍によるお子さんの暮らしへの影響（全体）



問 17 将来、あて名のお子さんに、どのような進学先を希望していますか。(1つに○)

- 希望するお子さんの進学先は、「大学まで (38.5%)」が最も多く、「高等学校まで (22.3%)」, 「わからない (17.7%)」が続いている。

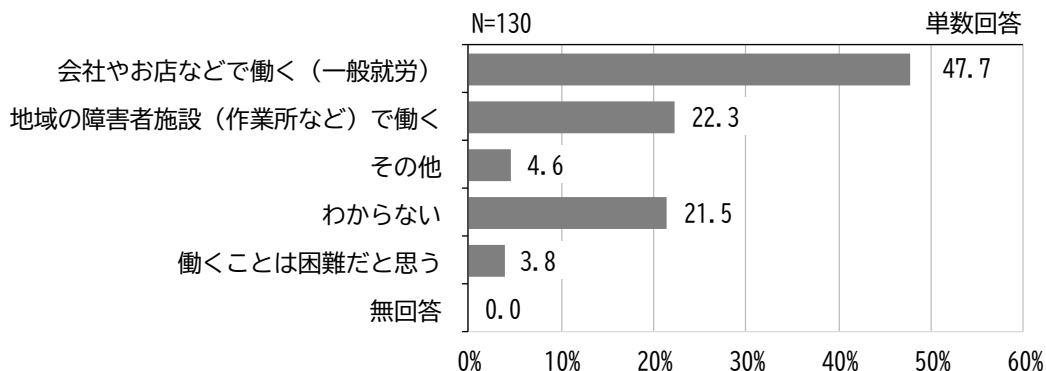
図表_障害児の保護者／希望するお子さんの進学先 (全体)



問 18 将来、あて名のお子さんに、どのような働き方を希望していますか。(1つに○)

- 希望するお子さんの働き方は、「会社やお店などで働く (一般就労) (47.7%)」が最も多く、「地域の障害者施設 (作業所など) で働く (22.3%)」, 「わからない (21.5%)」が続いている。

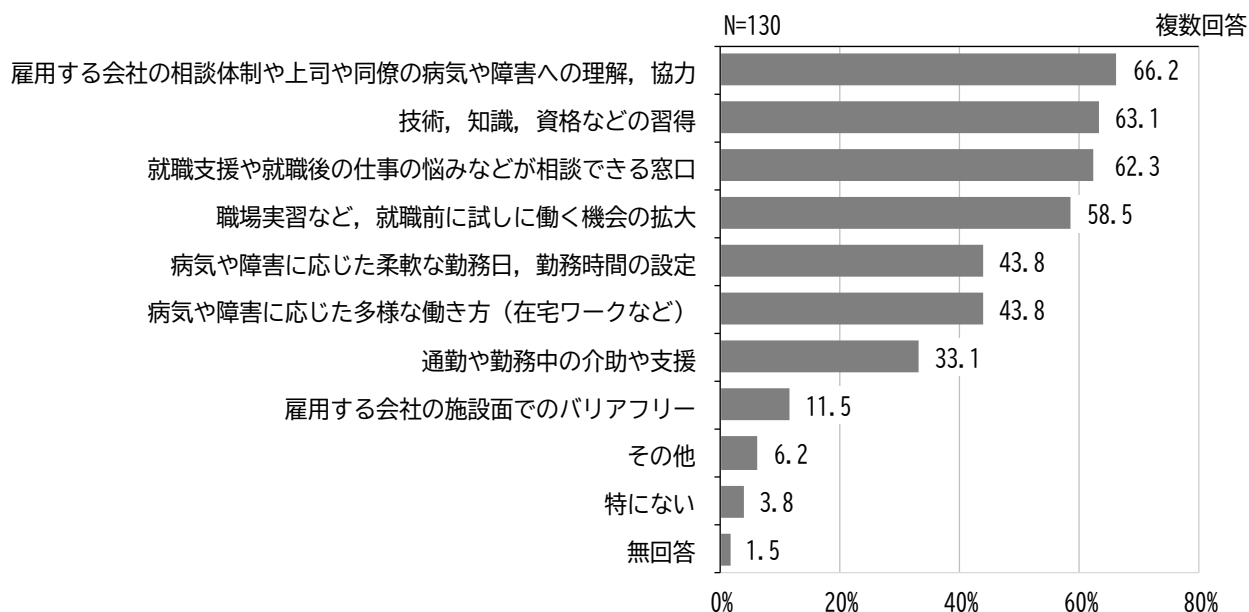
図表_障害児の保護者／希望するお子さんの働き方 (全体)



問 19 あて名のお子さんが仕事をするために、必要と思うことは何ですか。
(いくつでも○)

- お子さんが就労する上で必要なことは、「雇用する会社の相談体制や上司や同僚の病気や障害への理解，協力（66.2%）」が最も多く、「技術，知識，資格などの習得（63.1%）」，「就職支援や就職後の仕事の悩みなどが相談できる窓口（62.3%）」が続いている。

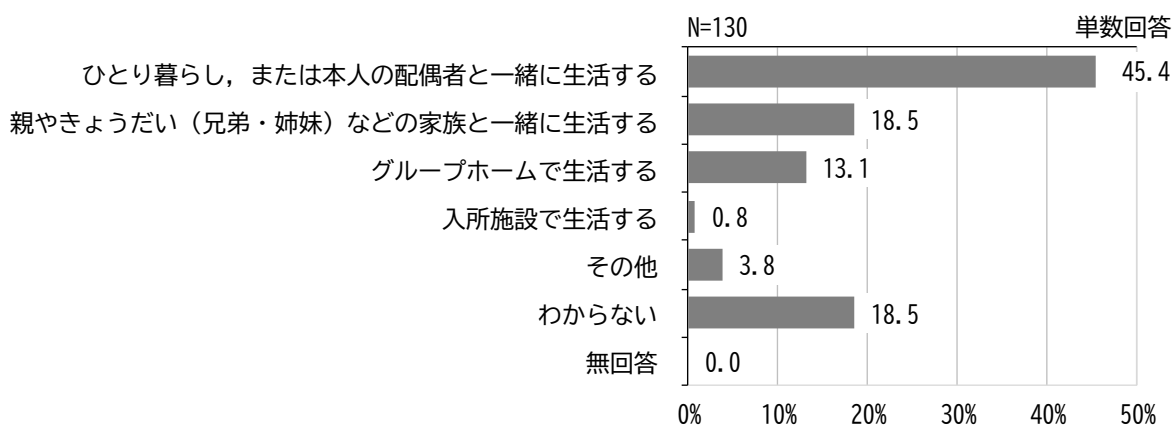
図表_障害児の保護者／お子さんが就労する上で必要なこと（全体）



問 20 将来，あて名のお子さんに，どのような生活を希望しますか。（1つに○）

- 希望するお子さんの暮らし方は、「ひとり暮らし，または本人の配偶者と一緒に生活する（45.4%）」が最も多く、「親やきょうだい（兄弟・姉妹）などの家族と一緒に生活する（18.5%）」と「わからない（18.5%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／希望するお子さんの暮らし方（全体）

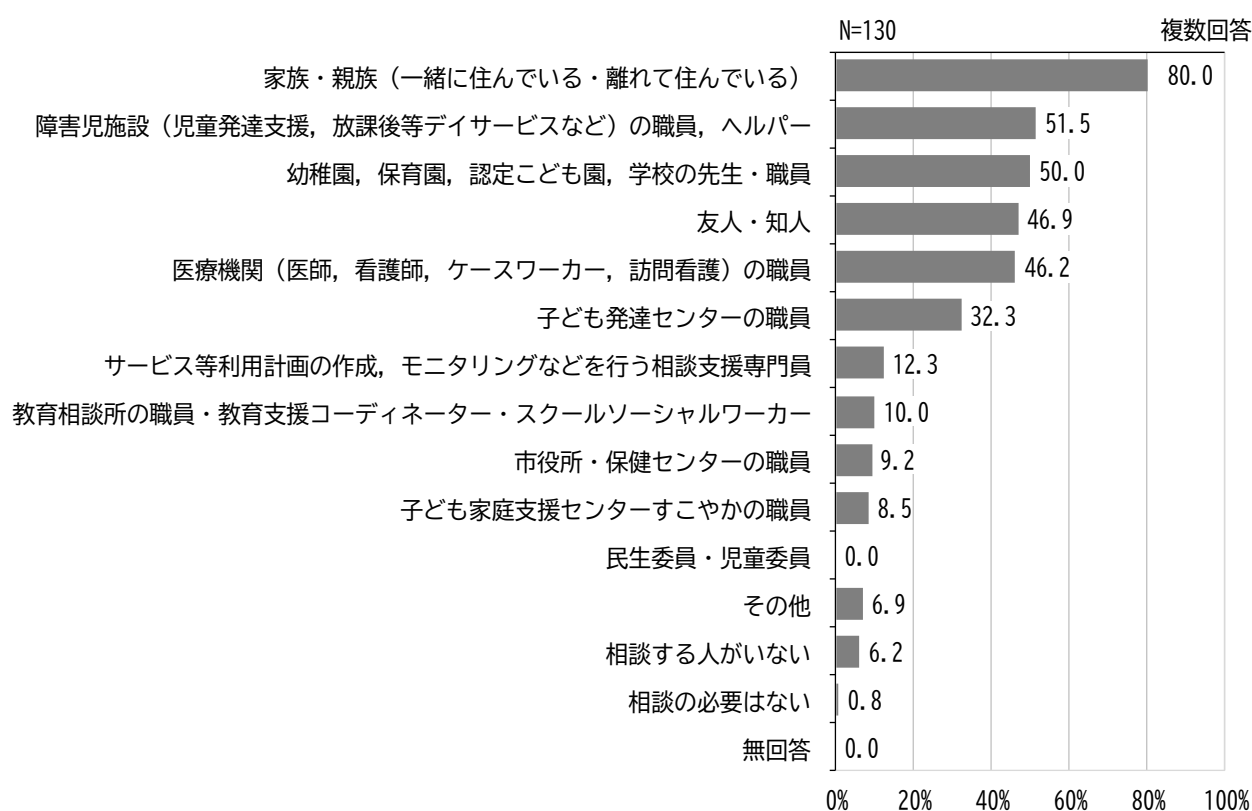


3 保護者の方に、相談支援についておたずねします

問 21 あなた（保護者）が悩みや困りごとを相談できる人や機関はありますか。
（いくつでも○）

- 保護者が困ったときの身近な相談相手は、「家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）（80.0%）」が最も多く、「障害児施設（児童発達支援、放課後等デイサービスなど）の職員、ヘルパー（51.5%）」、「幼稚園、保育園、認定こども園、学校の先生・職員（50.0%）」が続いている。

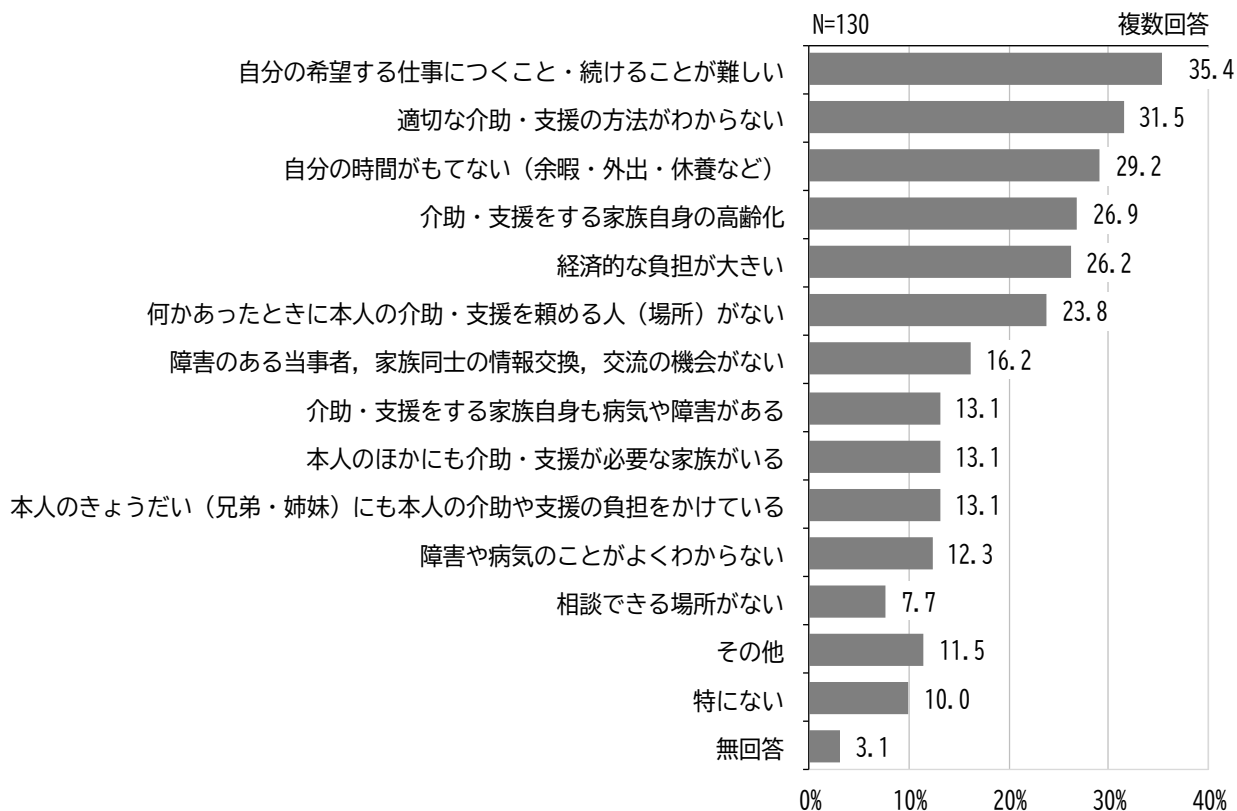
図表_障害児の保護者／保護者が困ったときの身近な相談相手（全体）



問 22 あなた（保護者）は、介助や支援に当たってどのような不安や困りごとがありますか。（いくつでも○）

- 介助や支援の不安や困りごとは、「自分の希望する仕事につくこと・続けることが難しい(35.4%)」が最も多く、「適切な介助・支援の方法がわからない(31.5%)」、「自分の時間がもてない（余暇・外出・休養など）（29.2%）」が続いている。

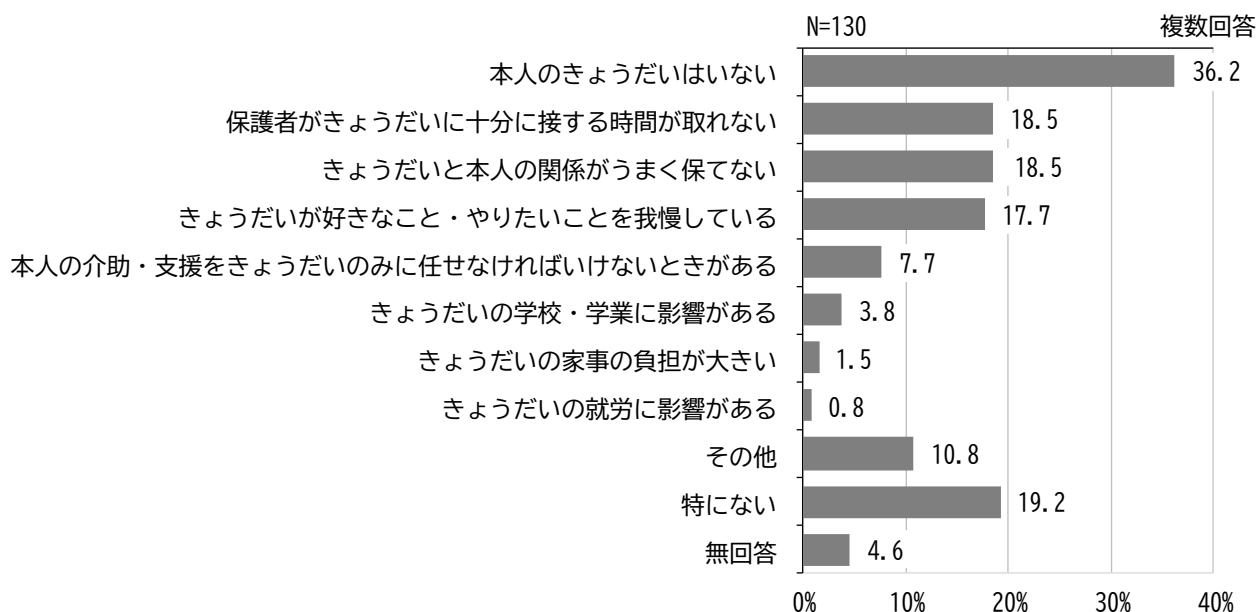
図表_障害児の保護者／介助や支援の不安や困りごと（全体）



問 23 本人の介助・支援に関連し、本人のきょうだい（兄弟・姉妹）についてどのような不安や困りごとがありますか。（いくつでも○）

- お子さんのきょうだい（兄弟・姉妹）に関する不安や困りごとは、「本人のきょうだいはいない（36.2%）」が最も多く、「保護者がきょうだいに十分に接する時間が取れない（18.5%）」と「きょうだいと本人の関係がうまく保てない（18.5%）」が続いている。

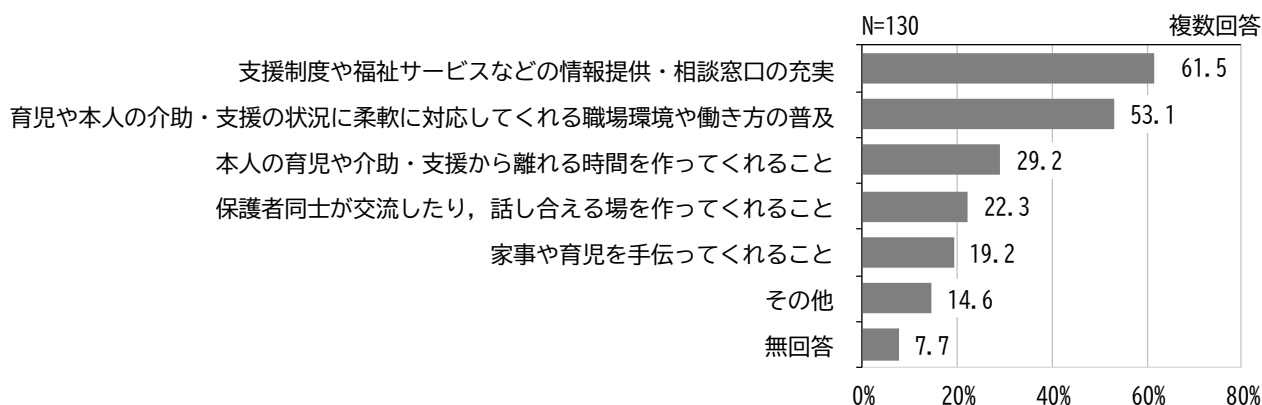
図表_障害児の保護者／お子さんのきょうだい（兄弟・姉妹）に関する不安や困りごと（全体）



問 24 保護者への支援として力を入れてほしいことは何ですか。（いくつでも○）

- 保護者への支援の希望は、「支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実（61.5%）」が最も多く、「育児や本人の介助・支援の状況に柔軟に対応してくれる職場環境や働き方の普及（53.1%）」，「本人の育児や介助・支援から離れる時間を作ってくれること（29.2%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／保護者への支援の希望（全体）

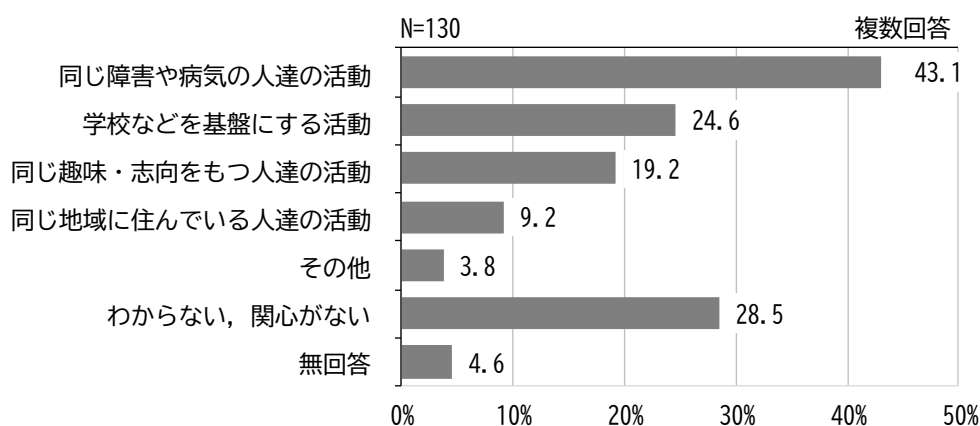


4 保護者の方に、市民同士の支え合いについておたずねします

問 25 近年、さまざまな主体による地域活動が行われています。あなたが参加しやすい活動は何ですか。（いくつでも○）

- 保護者が参加しやすい地域活動は、「同じ障害や病気の人達の活動（当事者団体・家族会、障害者施設や病院でのサークルなど）（43.1%）」が最も多く、「わからない、関心がない（28.5%）」、「学校などを基盤にする活動（保護者会・PTA・おやじの会など）（24.6%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／保護者が参加しやすい地域活動（全体）



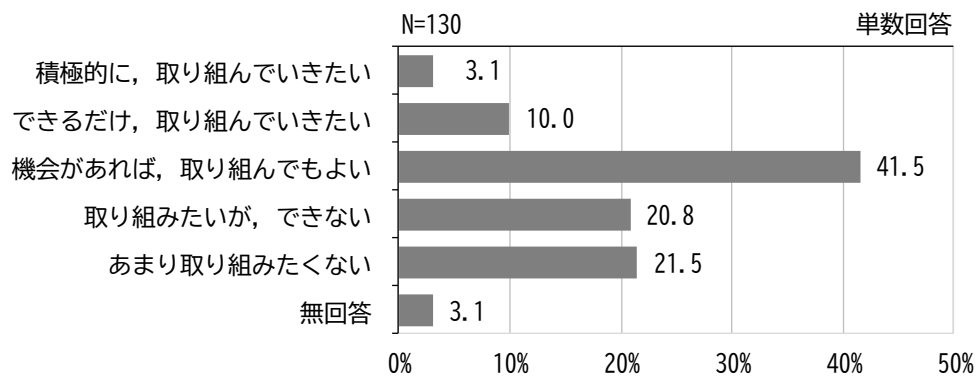
（選択肢の補足説明）

- ・ 同じ障害や病気の人達の活動（当事者団体・家族会、障害者施設や病院でのサークルなど）
- ・ 学校などを基盤にする活動（保護者会・PTA・おやじの会など）
- ・ 同じ趣味・志向をもつ人達の活動（趣味の同好会・教室・子育てサークルなど）
- ・ 同じ地域に住んでいる人達の活動（自治会・地区協議会・老人クラブ・マンション管理組合など）

問 26 あなた（保護者）は、今後、地域活動・ボランティア活動に取り組みたいです
か。（1つに○）

- 保護者の地域活動・ボランティア活動の取組意向は、「機会があれば、取り組んでもよい（41.5%）」が最も多く、「あまり取り組みたくない（21.5%）」、「取り組みたいが、できない（20.8%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／保護者の地域活動・ボランティア活動の取組意向（全体）

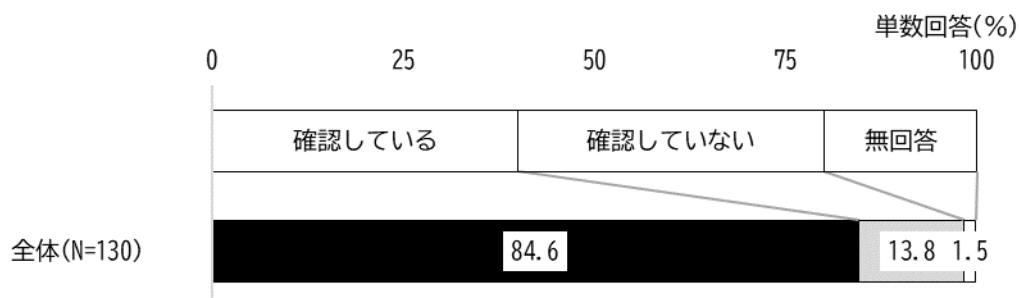


5 保護者の方に、災害時の対策についておたずねします

問 27 あなた（保護者）は、防災マップや洪水ハザードマップなどで避難場所・避難経路・警戒区域などを確認していますか。（1つに○）

- 避難場所・避難経路・警戒区域などの確認は、「確認している（84.6%）」、「確認していない（13.8%）」である。

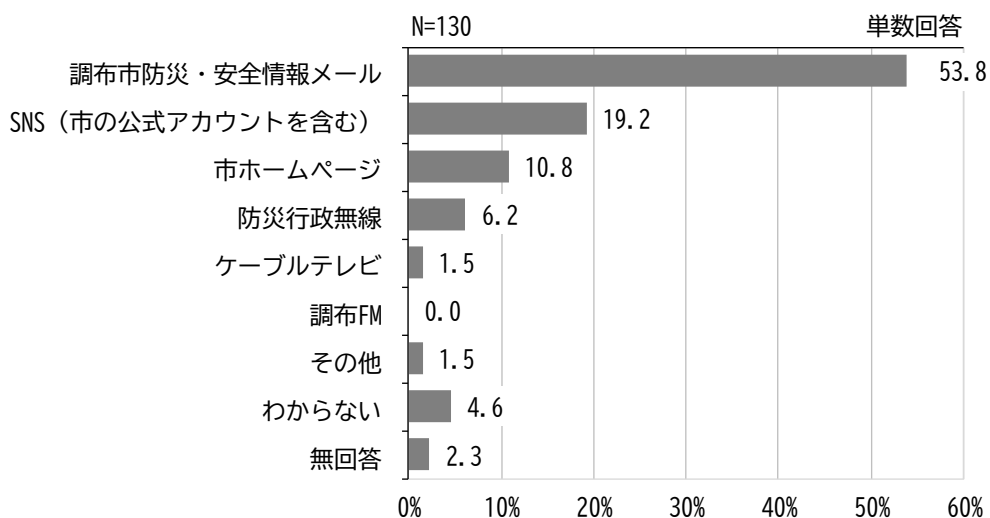
図表_障害児の保護者／避難場所・避難経路・警戒区域などの確認（全体）



問 28 あなた（保護者）は、災害や火災などの緊急の際、避難情報を主にどこからとりますか。（1つに○）

- 緊急時の避難情報の入手先は、「調布市防災・安全情報メール（53.8%）」が最も多く、「SNS（市の公式アカウントを含む）（19.2%）」、「市ホームページ（10.8%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／緊急時の避難情報の入手先（全体）

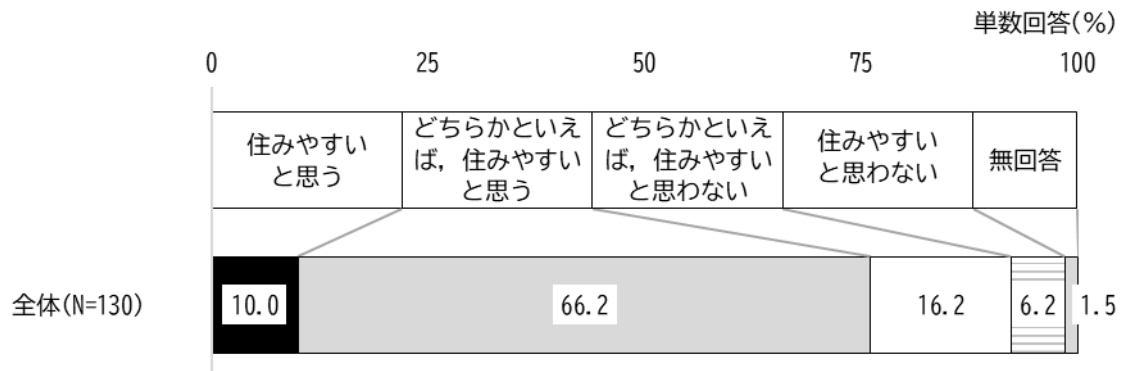


6 保護者の方に、誰もが暮らしやすいまちづくりについて おたずねします

問 29 調布のまちは、障害（身体障害、知的障害、精神障害、難病など）のある人にとって、福祉サービス、バリアフリー、市民意識などを総合的に考え、住みやすいまちであると感じますか。（1つに○）

- 調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるかについて、「住みやすいと思う（10.0%）」と「どちらかといえば、住みやすいと思う（66.2%）」を合わせた『住みやすい』の割合は76.2%、「どちらかといえば、住みやすいと思わない（16.2%）」と「住みやすいと思わない（6.2%）」を合わせた『住みやすいと思わない』が22.4%である。

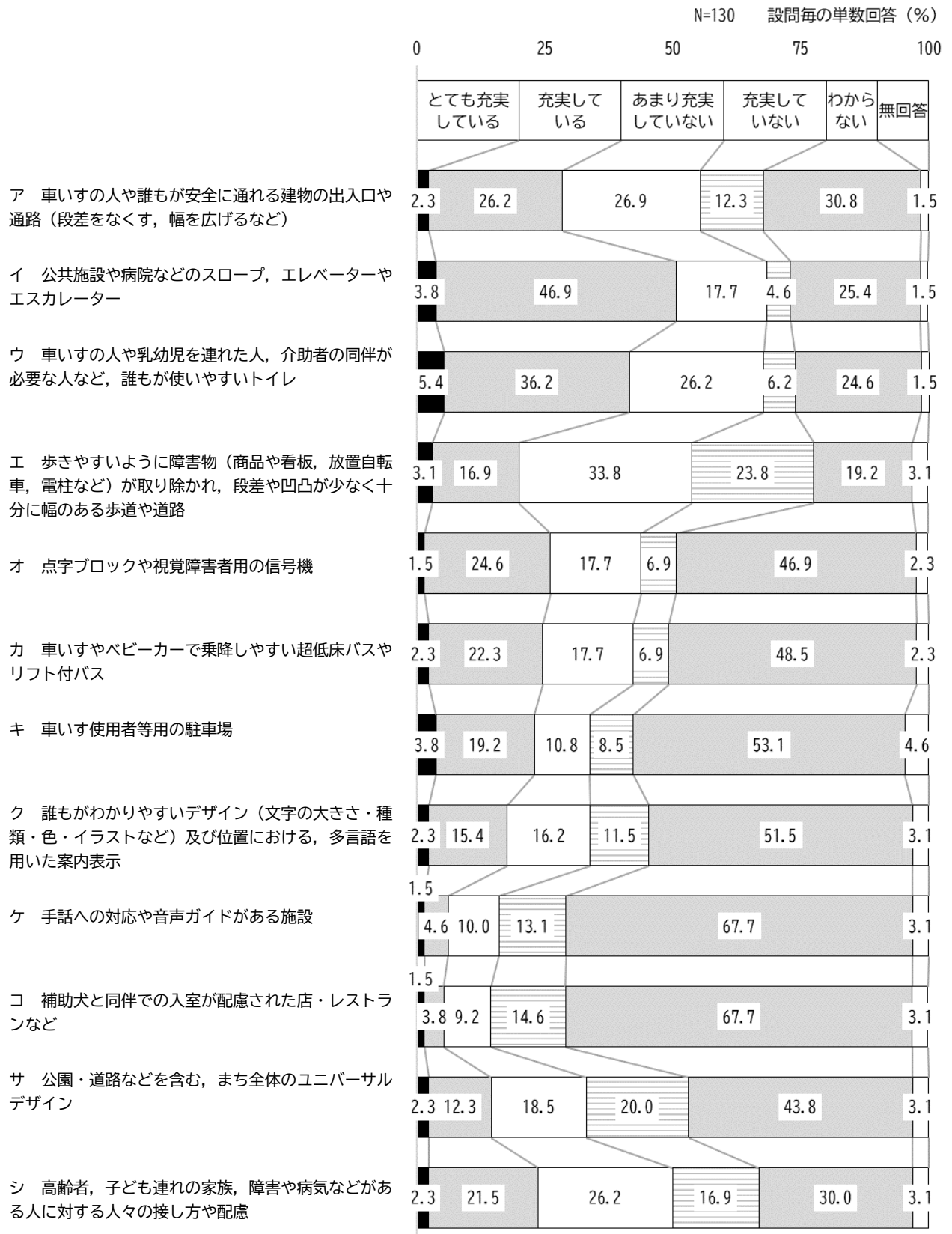
図表_障害児の保護者／調布のまちは、障害のある人にとって住みやすいまちと感じるか（全体）



問 30 市内のバリアフリーについて、どのように感じていますか。(それぞれ1つに○)

- 市内のバリアフリー化の状況について、「とても充実している」と「充実している」を合わせた『充実している』の割合は、『公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター（50.7%）』が最も多く、『車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ（41.6%）』、『車いすの人や誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど）（28.5%）』が続いている。
- 一方、「あまり充実していない」と「充実していない」を合わせた『充実していない』の割合は、『歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路（57.6%）』が最も多く、『高齢者、子ども連れの家族、障害や病気などがある人に対する人々の接し方や配慮（43.1%）』が続いている。

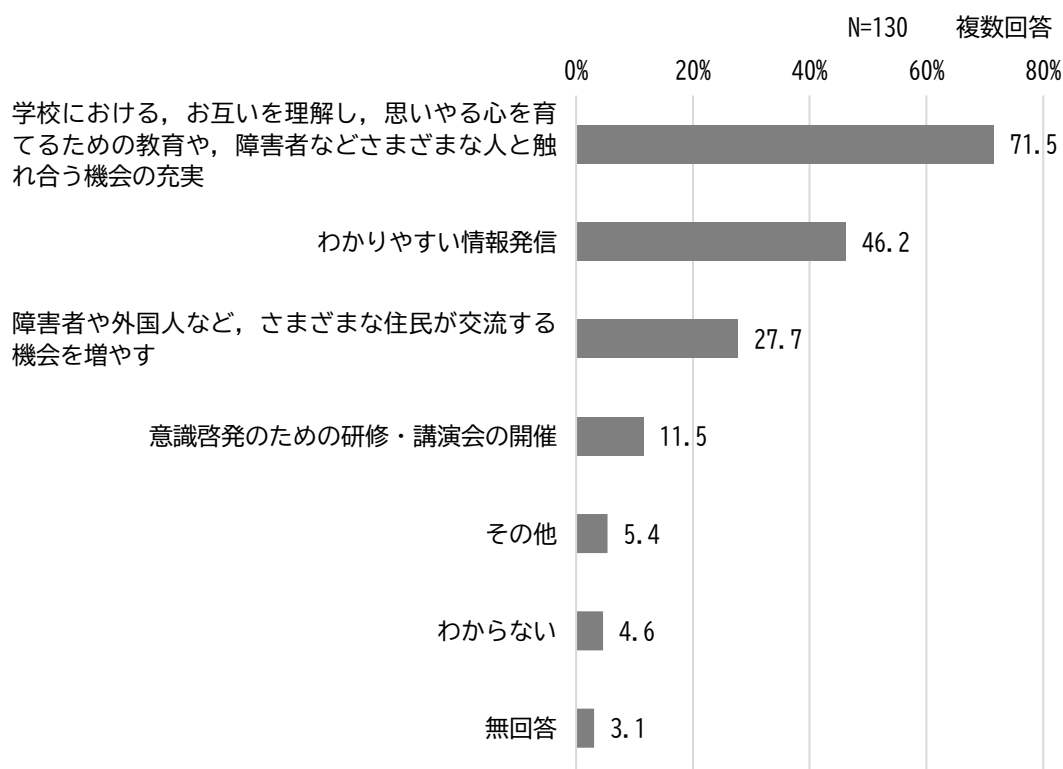
図表_障害児の保護者／市内のバリアフリー化の状況（全体）



問 31 誰もが暮らしやすいまちづくりに向けて、病気・障害・国籍・生活習慣などの違いによる心理的な障壁を取り除く（心のバリアフリー）ために、特に必要な取組は何だと思えますか。（2つまで○）

- 心のバリアフリーのための取組は、「学校における、お互いを理解し、思いやる心を育てるための教育や、障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実（71.5%）」が最も多く、「わかりやすい情報発信（46.2%）」、「障害者や外国人など、さまざまな住民が交流する機会を増やす（27.7%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／心のバリアフリーのための取組（全体）

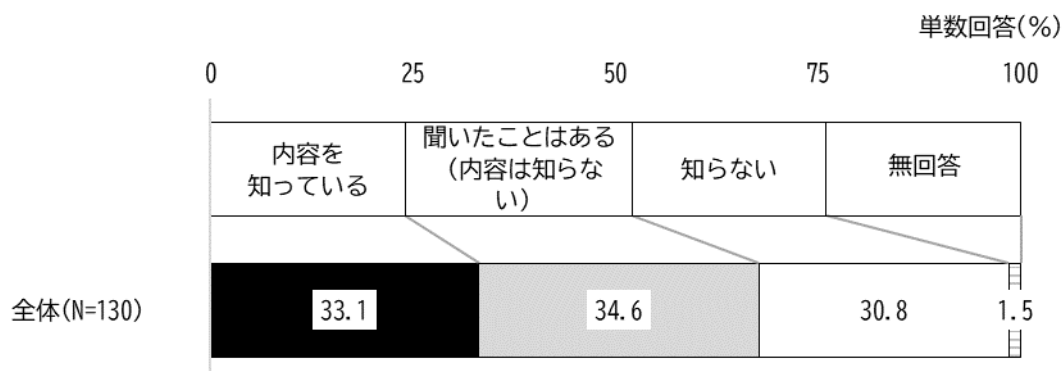


問 32 あなた（保護者）は、お互いにその人らしさを認め合い、ともに生きる社会をめざす法律や取組をご存知ですか。（それぞれ1つに○）

ア 障害者差別解消法

- 障害者差別解消法の認知度について、「内容を知っている（33.1%）」、「聞いたことはある（内容は知らない）（34.6%）」、「知らない（30.8%）」となっている。

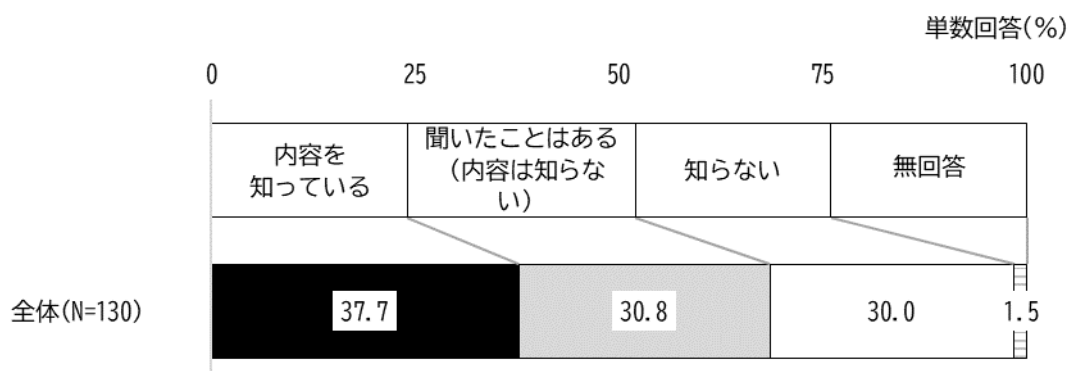
図表_障害児の保護者／障害者差別解消法の認知度（全体）



イ 合理的配慮

- 合理的配慮の認知度について、「内容を知っている（37.7%）」、「聞いたことはある（内容は知らない）（30.8%）」、「知らない（30.0%）」となっている。

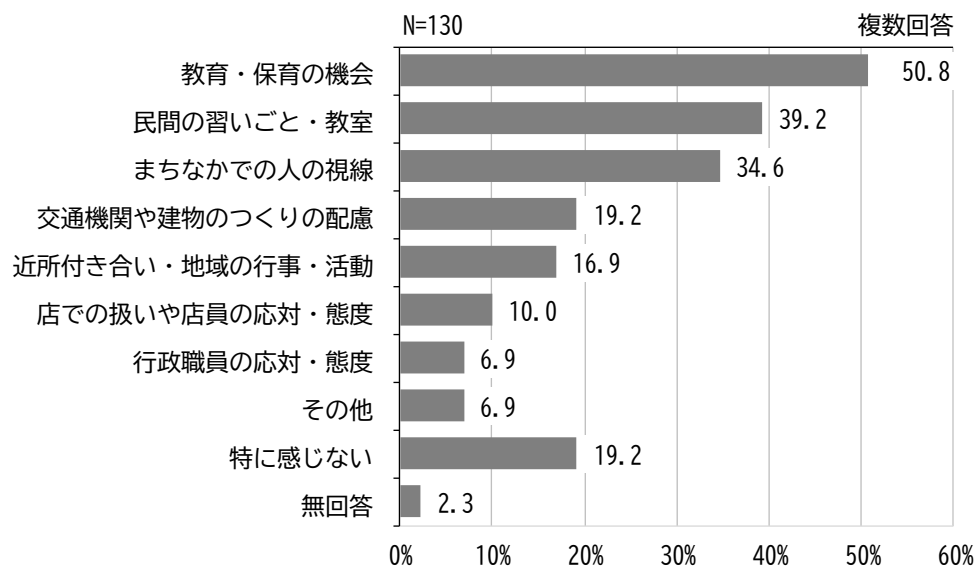
図表_障害児の保護者／合理的配慮の認知度（全体）



問 33 あなた（保護者）は、お子さんが生活する中で、障害や病気への差別や偏見、配慮のなさを感じることはありませんか。（いくつでも○）

- お子さんの障害や病気への差別や偏見、配慮のなさを感じる場面は、「教育・保育の機会（50.8%）」が最も多く、「民間の習いごと・教室（39.2%）」、「まちなかでの人の視線（34.6%）」が続いている。

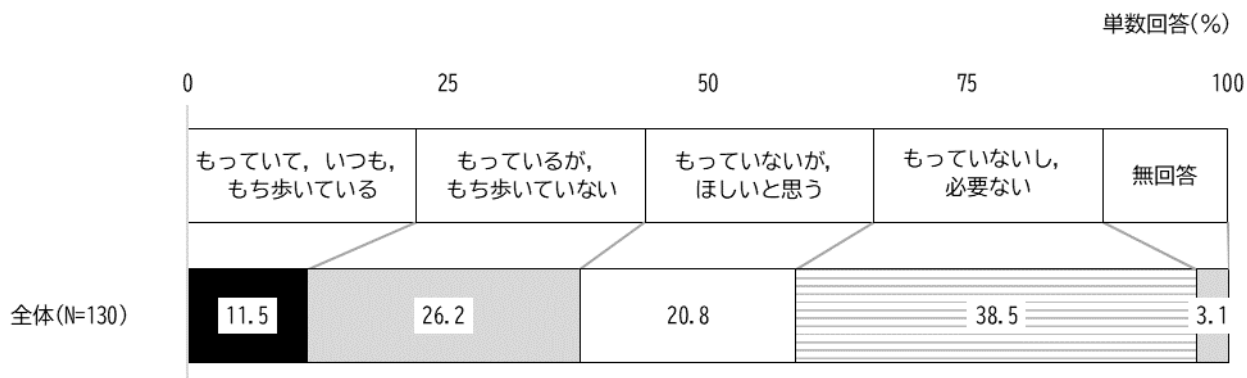
図表_障害児の保護者／お子さんの障害や病気への差別や偏見、配慮のなさを感じる場面（全体）



問 34 お子さんは、調布市が配布しているヘルプカード、ヘルプマークをもっていますか。（それぞれ1つに○）

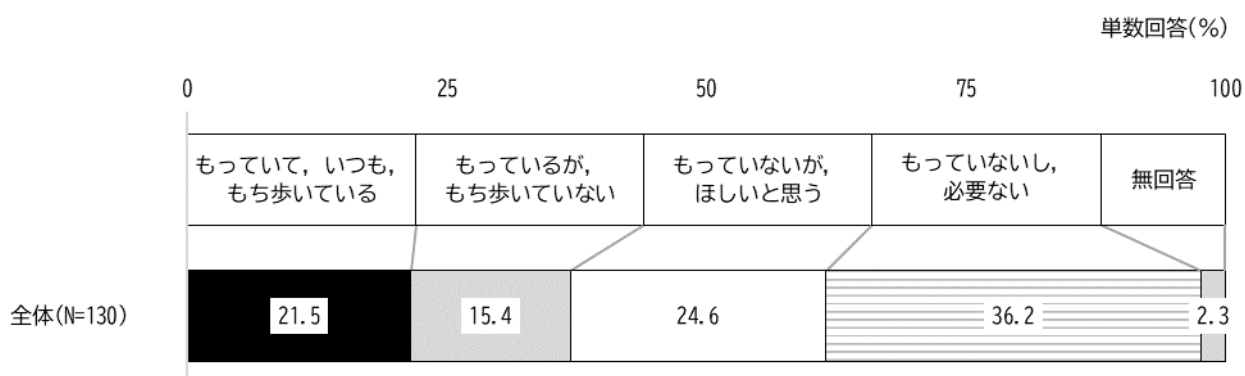
- ① ヘルプカード
- ヘルプカードの所持について、「もっていないし、必要ない（38.5%）」が最も多く、「もっているが、もち歩いていない（26.2%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／ヘルプカードの所持について（全体）



- ② ヘルプマーク
- ヘルプマークの所持について、「もっていないし、必要ない（36.2%）」が最も多く、「もっていないが、ほしいと思う（24.6%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／ヘルプマークの所持について（全体）

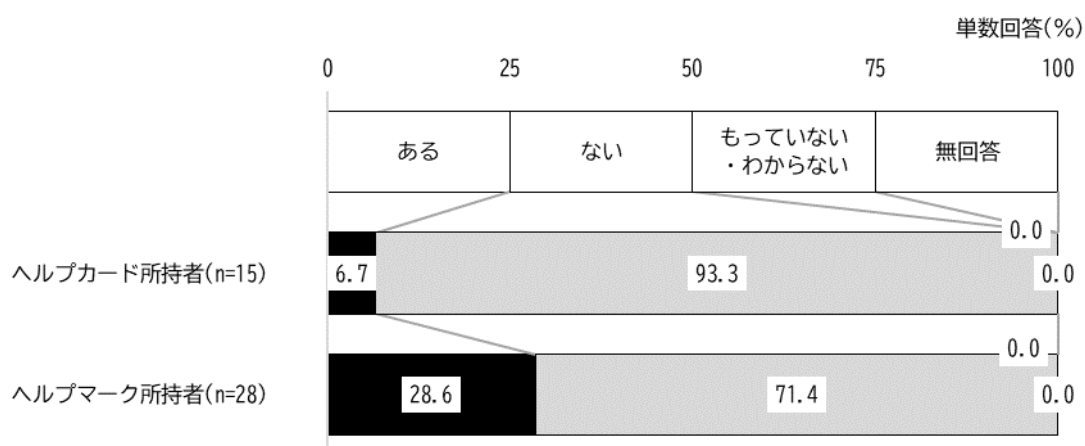


問 35 お子さんは、ヘルプカードやヘルプマークをもっていることで、周囲の人に配慮してもらったり、手助けをしてもらったりしたことがありますか。(1つに○)

- ヘルプカードやヘルプマークを「もっていて、いつも、もち歩いている」と回答した人が実感する効果について、ヘルプカード所持者で「ある(6.7%)」となっているのに対し、ヘルプマーク所持者で「ある(28.6%)」が20ポイント以上多くなっている。

図表 障害児の保護者／ヘルプカードやヘルプマークの効果の実感(全体)

<ヘルプカードまたはヘルプマークを「もっていて、いつも、もち歩いている」と回答した人>

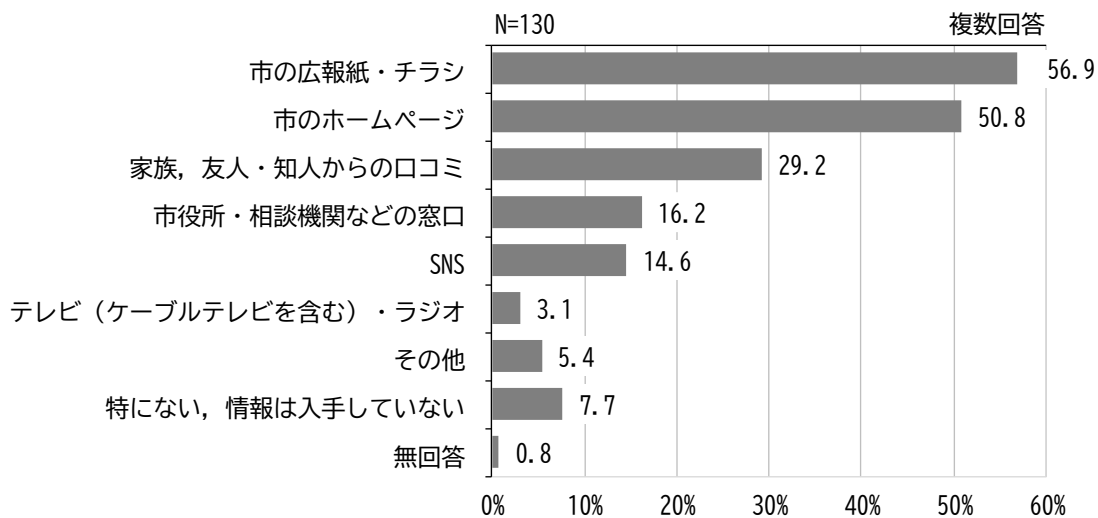


7 保護者の方に、デジタルの活用についておたずねします

問 36 あなた（保護者）は、調布市の保健福祉施策（サービス）に関する情報をどこから入手していますか。（いくつでも○）

- 市の保健福祉施策（サービス）に関する情報の入手先は、「市の広報紙・チラシ（56.9%）」が最も多く、「市のホームページ（50.8%）」、「家族、友人・知人からの口コミ（29.2%）」が続いている。

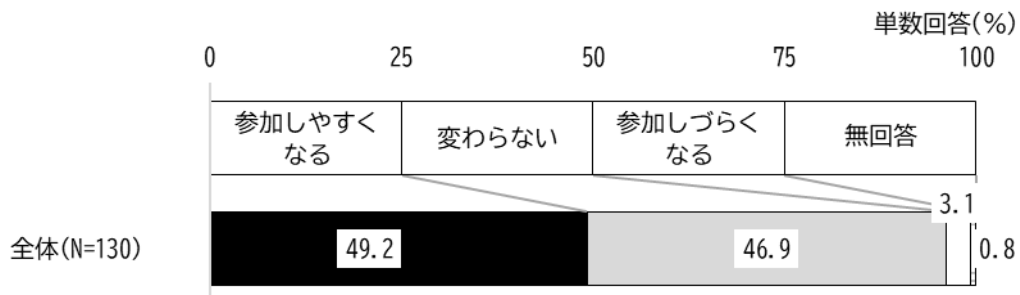
図表_障害児の保護者／市の保健福祉施策（サービス）に関する情報の入手先（全体）



問 37 お子さんやあなた（保護者）は、市や社会福祉協議会の講座やイベントがオンラインで開催されたら、参加しやすくなりますか。（1つに○）

- 市や社会福祉協議会の講座やイベントのオンライン開催の参加しやすさは、「参加しやすくなる（49.2%）」が最も多く、「変わらない（46.9%）」、「参加しづらくなる（3.1%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／市や社会福祉協議会の講座やイベントのオンライン開催の参加しやすさ（全体）



問 38 お子さんやあなた（保護者）がスマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使ってほしいこと、暮らしの利便性を高めるアイデアがございましたら、教えてください。（自由記述）

- スマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使ってほしいこと、暮らしの利便性を高めるアイデアについてのご意見、ご提案を自由記述形式でたずねたところ、22 件の回答があった。以下に項目別の意見数を掲載する。

図表_障害児の保護者/スマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使ってほしいこと（自由意見）

項目	意見区分	意見数
ア 教育のデジタル化		6
イ 市のデジタル化	①申請などのデジタル化 ②活動の支援	16
合計		22

- 項目別に意見を抜粋して掲載する（原文通り）。 ※性別は保護者

ア 教育のデジタル化

- 子供にプログラミング等を勉強させたい。（男性，小学校就学後）
- 子供が支援学校高等部に在籍しておりますが入りたいクラブ活動がなく、自分でサークルをパソコンを使って作れば良いと思っています。子供だけだとトラブルが起きそうなので、専門の先生などに管理していただくと上手く行くと思います。（男性，小学校就学後）
- 【子ども】小学校の特別支援教室や通級教室を 360° カメラで撮影して、パソコンやスマホで見学ができると嬉しい。新しい環境への緊張感も減り、自宅でリラックスした気分のもとで入学準備ができますし、見学案内を行う先生方の負担も減るのではないかと思います。【保護者より】 調布市子ども発達センターの個別面談が、もし親のみでよい内容の場合、オンラインで出来るとお互いに便利なのかなと思います。（男性，小学校就学前）

イ 市のデジタル化

①申請などのデジタル化

- 調布市内の音声ガイド。（行先を入れたら GPS を使って案内をしてくれる。徒歩利用。）（女性，小学校就学後）
- 福祉サービスを利用する際に、記入する障害についての情報提供の為の書類等、連携して欲しい（クラウド利用等）。（男性，小学校就学後）
- インターネットで各種手続きが時間外（24時間）できるようになるととても助かります。（女性，小学校就学後）

- 調布市，子育て応援サイト「コサイト」の様な障害児福祉向けの情報サイトがあると便利で，様々な事を調べて知る事が出来ると助かる気がします。（行政サービス・医療機関・街や店・イベント・学校・園等）市内の総合サイト的な役割りで，日常生活向けのもの。（男性，小学校就学前）

②活動の支援

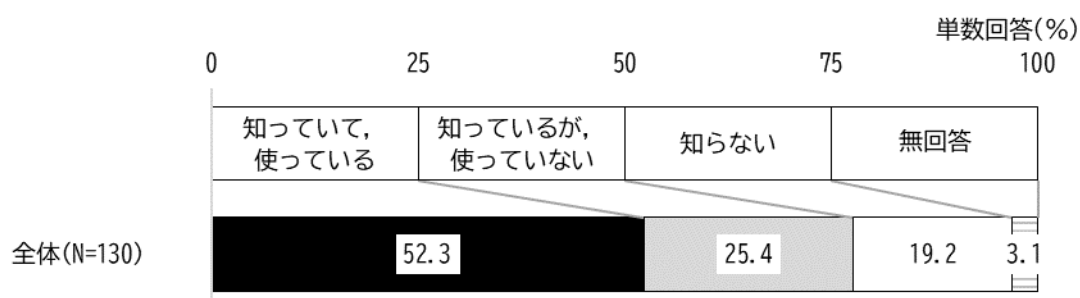
- 公演会やイベント etc. のアーカイブを期間限定で良いので，視聴できるサービス。（男性，小学校就学後）
- 1. すこやかで行われている〇〇パンダの内容の動画配信。毎日ではなく一度作成し，5年に一度くらいで内容を変える。現在，定員が決まっており，参加できなかったことが多々あった為。2. 子育てアイテムのお下がりあげる・貰うができるネットの何か（健やか児童館で紙や現物で行われているものをネットで）。3. 両親学級の内容も動画配信。（女性，小学校就学前）
- 市が主催する無料の講演会などはオンラインで配信してほしいです。（男性，小学校就学前）

8 保護者の方に、調布市の障害者福祉施策についておたずねします

問 39 あなた（保護者）は、調布市が個別配布している「i（あい）-ファイル」をご存知ですか。（1つに○）

- i-ファイルの認知度は、「知っている、使っている（52.3%）」と「知っているが、使っていない（25.4%）」を合わせた『知っている』の割合は、77.7%である。
- 一方、「知らない」は19.2%である。

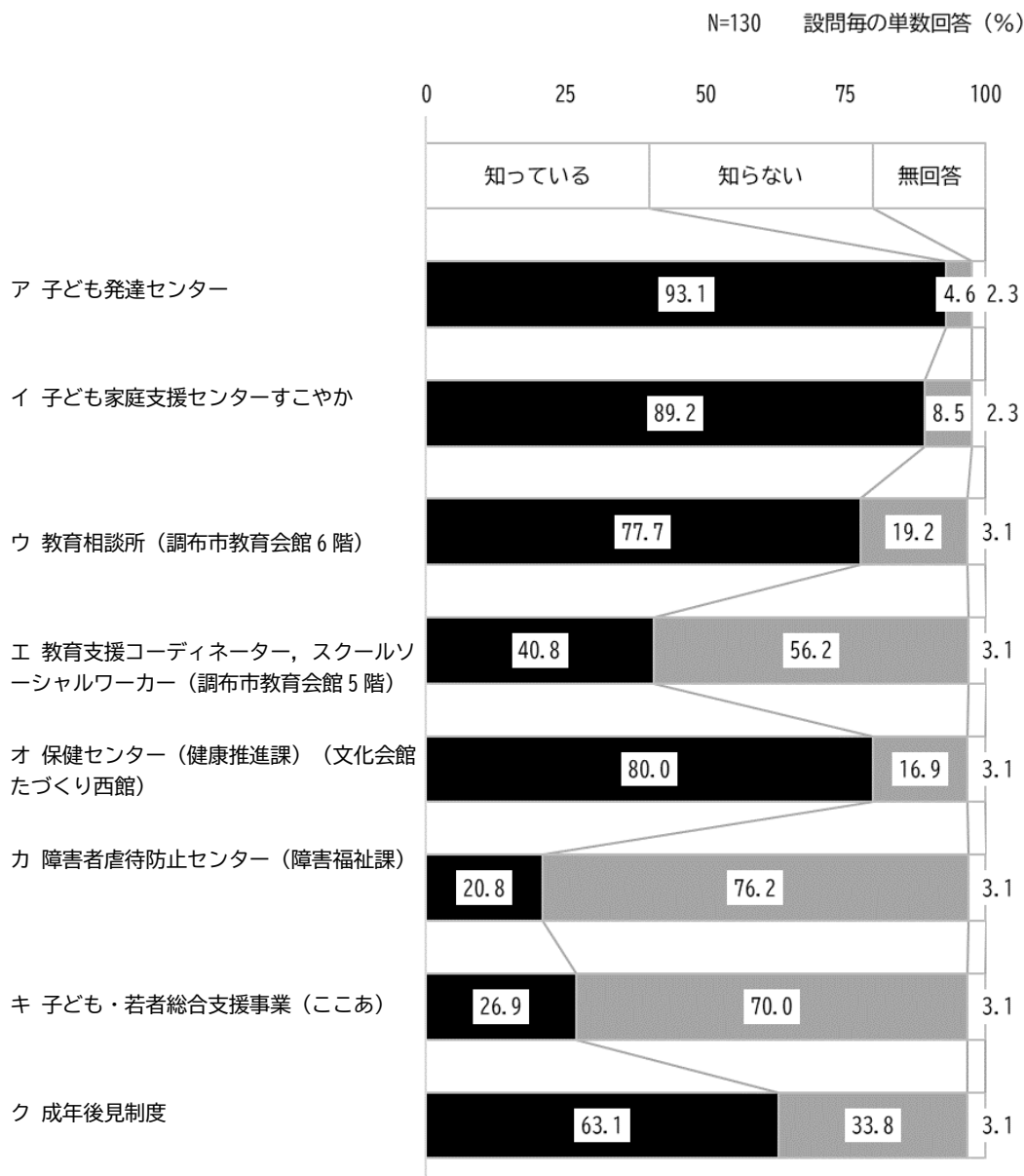
図表_障害児の保護者/i-ファイルの認知度（全体）



問 40 あなたは次の調布市の相談窓口や制度を知っていますか。（それぞれ1つに○）

- 市の相談窓口の認知度について、「知っている」の割合は、『子ども発達センター（93.1%）』が最も多く、『子ども家庭支援センターすこやか（89.2%）』，『保健センター（健康推進課）（文化会館たづくり西館）（80.0%）』が続いている。

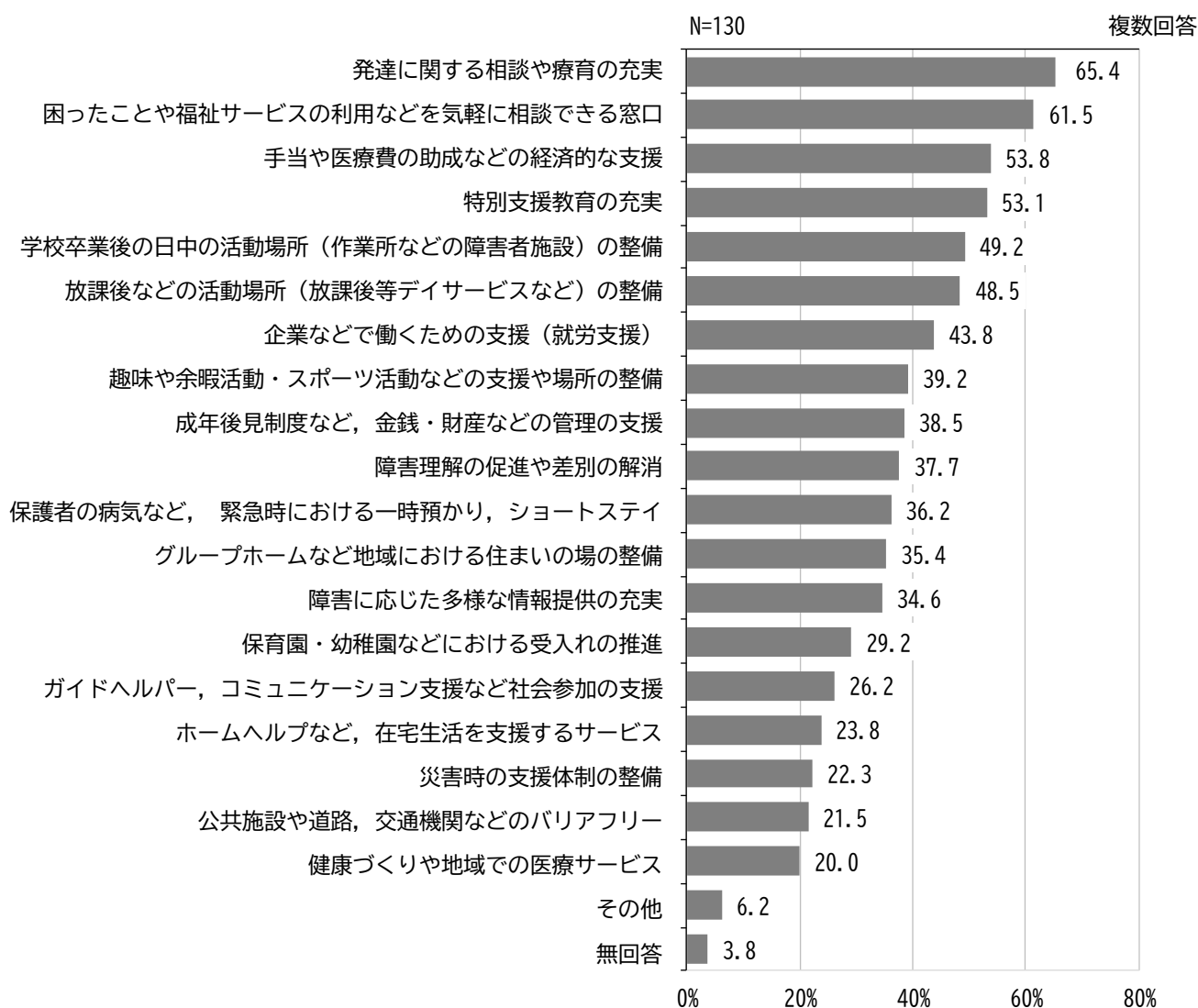
図表_障害児の保護者／調布市の相談窓口の認知状況（全体）



問 41 調布市の障害児福祉施策（サービス）をより充実していくために、あなた（保護者）が特に重要と考える取組は何ですか。（いくつでも○）

- 市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組は、「発達に関する相談や療育の充実（65.4%）」が最も多く、「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口（61.5%）」、「手当や医療費の助成などの経済的な支援（53.8%）」が続いている。

図表_障害児の保護者／市の障害児福祉施策（サービス）において重要な取組（全体）



問 42 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすまちづくりの取組について、ご意見、ご提案をお聞かせください。（自由記述）

- 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすまちづくりの取組についてのご意見、ご提案を自由記述形式でたずねたところ、74件の回答があった。以下に項目別の意見数を掲載する。

図表_障害児の保護者／自由意見

項目	意見区分	意見数
ア 地域活動，市民同士の支え合い	①障害への理解 ②交流	18
イ 相談，サービス	①相談体制の充実 ②市のサービス	17
ウ 安全・安心	①交通安全 ②防犯の強化 ③暮らし	17
エ 上記以外	①教育・保育の充実 ②放課後，卒業後の活動支援 ③共生社会の推進	22
合計		74

- 項目別に意見を抜粋して掲載する（原文通り）。 ※性別は保護者

ア 地域活動，市民同士の支え合い

①障害への理解

- 発達障害への支援について、知っているようで知らない人が多く、最新の情報をいつでも知ることが出来たらと思います。（女性，小学校就学後）
- 障害等の知識を付けて頂きたいです。ゆりかご面接や乳児検診の時に、しっかり伝える事が必要だと思います。（男性，小学校就学後）
- 一般市民の障害者に対する理解を深め、差別解消する事が必要。小学生低学年から特別支援教育への相互理解を更に深めて欲しい。（女性，小学校就学後）

②交流

- 調布市で障害を持つ人が簡単にコミュニケーションをとれる SNS があればいいと思う。或いは、インスタやツイッターで共通にハッシュタグを使って、簡単に出会える様になればいいと思う（情報交換の利便性）。（男性，小学校就学前）

- 保護者が気軽に質問でき、交流できるサイトあれば便利。（男性，小学校就学前）
- 発達障害児を抱えての地域活動の参加が難しいです。（男性，小学校就学前）

イ 相談，サービス

①相談体制の充実

- オンラインでの相談サービスを充実させていただけると，こどもを家族に任せている間や介護の合間など，相談者の準備の負担が減りリラックスしてお話ししやすいのではないかなと思います。（男性，小学校就学前）
- 最初に相談をする壁が高い。最初の相談アクションをネットで行えると少し壁が下がり，利用のきっかけ・アクションに繋がり易い。（女性，小学校就学後）
- HPのUIを見易く，窓口も隣と近過ぎてプライバシーが筒抜けで辛く感じます。（男性，小学校就学後）

②市のサービス

- 第一子が障害がある子供でなかなか遅れに気づきませんでした，歯科検診で声をかけられて相談できて本当によかったと思います。新生児訪問の様に6ヶ月訪問，一歳訪問とかあると相談しやすいかもしれません。（男性，小学校就学後）
- ウェブやアプリ等で，手帳の級や年収等の経済状況を入れると，市内で受けられるサービスはこれですよ～と勝手に一覧で出てくるようなものがあつたらとても便利だと思う。（「障害福祉のしおり」に明記されているような内容のどれを自分の子どもが使えるのか見定めるのが大変なので）（女性，小学校就学後）
- 子供発達センターを中学3年生まで延長して（一時預かり）頂きたい。他に依頼できる所が少ないと言いますか，無いです。（男性，小学校就学後）
- 就学してしまうと子供発達センターが利用出来なくなり，相談する機会が減る。放課後デイサービスの質がまちまちで，ただ，預かるだけの所があると聞いた。教育を受ける機会が就学すると減る。（男性，小学校就学前）

ウ 安全・安心

①交通安全

- 道路の作りが通学路なのに狭くて車も多い箇所が多いです。第1小の前，多摩小の前等。（男性，小学校就学後）
- 道幅が狭い為，自転車と歩道を分けてもらいたい。障害のあるなしに拘らず，ヒヤットする事が多くあります。（男性，小学校就学後）

②防犯の強化

- 市内の街灯が非常に暗い。LEDになれば防犯上も、交通安全面でも安心できるのに…とよく思う。我が家はつつじヶ丘駅から程近いのですが、線路沿いの道ですら暗いです。（男性、小学校就学後）
- 公園の木がわりとぼっさり切られていて、不審者が隠れやすそうな場所が減っているのはありがたいなと思います。今後も、隠れやすくここでなら犯罪を起こしやすそうだと思う場所を減らすことに、力を注いで頂けたらと思います。警察署の犯罪発生マップが、市民も見られたらいいのになと思います。【子どもは「この場所」で襲われる】（小学館新書）のホットスポットパトロール（地域をぐるぐるまわるのではなく危ない箇所を重点的に巡る）は、市民同士でもできる防犯対策かなと思います。（男性、小学校就学前）

③暮らし

- 公園でも、室内施設でも、いつでも安心安全に体を動かしたり、交流できる遊び場（トイレ等含めて）ユニバーサルデザイン遊具を置く等、障害児向けの場があると親子で嬉しいです。色々な交流が生まれそう。（男性、小学校就学前）
- 障害者が生まれ育った地域で自立して暮らしていける様に、福祉事業の作業所やグループホーム、生活介護施設等の拡充、成年後見制度等、サービスの見直しをお願い致します。（女性、小学校就学後）

エ 上記以外

①教育・保育の充実

- 子供が在宅酸素をしている為、保育園受け入れ不可となっています。他県や他の市区町村では受入れてもらっているお子様もいるので残念です。せめて、医師の診断書があれば可能とする等の配慮を頂きたいです。酸素を吸引している事以外は普通の子と同じ生活を送れているので、あまり怖がらないで頂きたいです。因みに、保育園が酸素NGの為、無理矢理、医師に酸素OFFの許可を貰っている人もいるくらい重要な問題です。（男性、小学校就学前）
- 幼稚園は通常児の為の園でしかなく、発達障害のある子の対応が出来ていない。発達障害のある子への理解のないやる気は迷惑でしかない。（男性、小学校就学前）
- 他の市ではある、通常級と支援級の間にあたる学級を作って頂きたいです。小・中学校で。（男性、小学校就学後）

②放課後，卒業後の活動支援

- 放課後デイサービスを市で管理して，入所させて欲しい。箇所毎に確認するのが大変（認可保育園にして欲しい）。（男性，小学校就学前）
- 放課後等デイサービスで，児童個別にレベルを合わせた学習支援が存在しない。在宅の個別講師等は費用が高く，集団での塾等は向いていない。親が教えるのは限界があり，困難。ご検討下さい。（男性，小学校就学後）
- 卒業後の作業所の後の活動場所（放課後等デイサービスのような）の設立。週末のグループでの外出のイベントを作って欲しいです。自分でお出かけ出来ない障害者が参加できるイベントを切望します。（男性，小学校就学後）

③共生社会の推進

- 障害について，知らないという事が一番問題。いろいろな障害について学んだり，知るきっかけがあると，障害者への接し方が変わると思います。（男性，小学校就学後）
- 家庭に障害児がいる事を地域の方に知っていて欲しい。何でもかんでも通報しないで欲しい。（男性，小学校就学後）
- サポートが必要だと感じる場面でヘルプカードを提示すると，サポートが必要だということは伝わるが，具体的にどのように支援したら良いかを説明する事が難しいです。北海道の札幌市HPを見ると「知的障害のある方とのコミュニケーションハンドブック」がダウンロード出来ます。この冊子はイラストも多く，日常生活での移動や買い物等，様々な場面での具体的なサポート方法が紹介されていて分かり易いです。多くの市民に障害者への理解が広まる様にこのようなハンドブックを市役所や図書館等の公共施設で配布したり，市内各児童館や学校の職員にも読んで頂ける事を希望します。札幌市のパンフレットを同封しています。（男性，小学校就学後）